

令和6年度区民参加型予算（モデル実施）  
区民等から受け付けた提案（全文）と区の考え方

提案事業一覧

| 提案 No. | 事業名  |
|--------|--|
| 1      | <a href="#">災害時におけるトイレコンポスの利用</a>                      |
| 2      | <a href="#">防災×安心</a>                                  |
| 3      | <a href="#">井戸水で猛暑も楽しもう！</a>                           |
| 4      | <a href="#">防災端末</a>                                   |
| 5      | <a href="#">居住地における災害時の避難場所の明確化</a>                    |
| 6      | <a href="#">防災アニメーション作成</a>                            |
| 7      | <a href="#">区立公園内での太陽光発電、蓄電</a>                        |
| 8      | <a href="#">防災×環境。「水の架け橋」参画。備蓄水をダブルのエコに。</a>           |
| 9      | <a href="#">防災を楽しく理解しよう、そしてつながろう</a>                   |
| 10     | <a href="#">防災警報</a>                                   |
| 11     | <a href="#">情報共有プラットフォームの構築</a>                        |
| 12     | <a href="#">子ども向け参加型防災訓練まつり</a>                        |
| 13     | <a href="#">無題</a>                                     |
| 14     | <a href="#">大人、子ども楽しめる参加型イベント</a>                      |
| 15     | <a href="#">道路の拡張工事とバス救助</a>                           |
| 16     | <a href="#">消防団員を手伝おう</a>                              |
| 17     | <a href="#">防災運動会！</a>                                 |
| 18     | <a href="#">安全な避難経路の周知</a>                             |
| 19     | <a href="#">① 若い人向けデジタル情報（アプリ）の活用、② 高齢者向け地域グループの利用</a> |
| 20     | <a href="#">街灯のソーラー化+LED化+蓄電池の設置</a>                   |
| 21     | <a href="#">南北区道路の無電柱化</a>                             |
| 22     | <a href="#">青梅街道の自転車専用レーン設置</a>                        |
| 23     | <a href="#">防災アプリの開発</a>                               |
| 24     | <a href="#">正しい情報をネットに広めよう</a>                         |
| 25     | <a href="#">防災マップを拡充しよう</a>                            |
| 26     | <a href="#">防災×雨水タンクアート</a>                            |
| 27     | <a href="#">アニメ「防災・減災」</a>                             |
| 28     | <a href="#">避難者登録情報管理の改善</a>                           |
| 29     | <a href="#">雨水浸透事業</a>                                 |
| 30     | <a href="#">防災 カケル 農業</a>                              |

|    |   |
|----|---|
| 31 | <a href="#">区民のいのちを守るみどりを区民の手で広げよう！</a>         |
| 32 | <a href="#">無電柱、無電線化と交通事故ゼロ</a>                 |
| 33 | <a href="#">震災救援所等の備蓄品管理のデジタル化推進（GS1 標準コード）</a> |
| 34 | <a href="#">調和の森コミュニティ</a>                      |
| 35 | <a href="#">学校地域防災事業</a>                        |
| 36 | <a href="#">地域と共に学ぶ：子供たちの未来を守る防災意識向上プロジェクト</a>  |
| 37 | <a href="#">街頭消火器による多文化共生オリエンテーリング大会</a>        |
| 38 | <a href="#">畳堤で家を守る事業</a>                       |
| 39 | <a href="#">学校に行こう！みんなのワンストップ地区避難所づくり</a>       |
| 40 | <a href="#">SUGINIMATION（杉並×アニメーション の造語）</a>    |
| 41 | <a href="#">巡回安全パトカーを災害時に給電でき環境に優しい電気自動車に。</a>  |
| 42 | <a href="#">エレベーター内閉じ込め防止備品の設置と安心の見守り訓練</a>     |
| 43 | <a href="#">防災と与謝野晶子</a>                        |
| 44 | <a href="#">大規模防災訓練×誰でも食堂×地産地消の見直し</a>          |
| 45 | <a href="#">自転車防災チャレンジ</a>                      |
| 46 | <a href="#">スプリンクラー設置助成（火災リスク低減、節電、熱中症予防）</a>   |
| 47 | <a href="#">24 時間風呂利用による減災、災害時の水確保</a>          |
| 48 | <a href="#">ペットシールから繋がるコミュニティの輪</a>             |
| 49 | <a href="#">青空地域食堂</a>                          |
| 50 | <a href="#">防災対策として、グリーンインフラ導入と緑地保全の推進について</a>  |
| 51 | <a href="#">防災×医療準備セット</a>                      |
| 52 | <a href="#">公共施設に公共冷蔵庫・厨房を設置</a>                |
| 53 | <a href="#">災害時に非常用電源として活用可能なシェアサイクルモデル実証</a>   |
| 54 | <a href="#">都市と地方をかきまぜて東京での大災害に備えよう</a>         |
| 55 | <a href="#">都の土地活用</a>                          |
| 56 | <a href="#">防災×朗読劇 「自分で考える防災対策」</a>             |
| 57 | <a href="#">屋上菜園、井戸掘り事業</a>                     |
| 58 | <a href="#">持続可能な開発に有効なグリーンインフラを活用し、防災対策を！</a>  |
| 59 | <a href="#">防災×被災者専用アプリの創設と被災地に救済物資引渡し場所設置</a>  |
| 60 | <a href="#">地域停電時に太陽光パネルの電気をおすそ分け</a>           |
| 61 | <a href="#">防災コーディネーター育成のため、予算増額</a>            |
| 62 | <a href="#">防災・減災 × 終活で、スッキリ生きる！</a>            |
| 63 | <a href="#">防災（訓練）×デイキャンプ</a>                   |
| 64 | <a href="#">大震災の時の『我が身の守り方』を家族で話そう！</a>         |
| 65 | <a href="#">杉並区ぼうさい模試</a>                       |

|    |  |
|----|--|
| 66 | <a href="#">防災コミュニティ形成とハザードマップ改善プロジェクト</a>     |
| 67 | <a href="#">異年齢・障がい児合併保育の推進と防災対策</a>           |
| 68 | <a href="#">防災無線 戸別受信機設置貸与</a>                 |
| 69 | <a href="#">防災×生物多様性</a>                       |
| 70 | <a href="#">防災×流域治水の見える化</a>                   |
| 71 | <a href="#">防災×グリーンインフラ</a>                    |
| 72 | <a href="#">「防災×区長室流域治水タスクフォース」</a>            |
| 73 | <a href="#">小中学生と教員向けグリーンインフラ教育プログラム</a>       |
| 74 | <a href="#">「防災×流域治水人材育成：ブルジョブ促進プロジェクト」</a>    |
| 75 | <a href="#">防災×雨水タンク：災害時の水確保と水害リスク低減プロジェクト</a> |
| 76 | <a href="#">「杉並雨庭ネットワーク」</a>                   |
| 77 | <a href="#">体験型生物多様性の森づくり</a>                  |
| 78 | <a href="#">防災×樹木管理のための人材育成の提案</a>             |
| 79 | <a href="#">【防災×区民との対話】杉並区新しい防災ビジョン区民会議</a>    |
| 80 | <a href="#">震災救援所運営連絡会構成員の防災士資格試験料等の助成制度創設</a> |
| 81 | <a href="#">地元商店街と必要品買い取り協定</a>                |
| 82 | <a href="#">杉並区成二・成三モデル「脱炭素型防災拠点の変貌」</a>       |
| 83 | <a href="#">杉並区 防災公園の構築</a>                    |

|                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 〈番号〉                  | 〈事業の題名〉                |
|                       | 〈事業の要約〉                |
|                       | 〈事業の詳細、事業を実施することによる効果〉 |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | 〈区の考え方〉                |

※なお、意見全文の公表を望まない場合は意見の概要としています。

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 1                     | 災害時におけるトイレコンポストの利用  |
|                       | <p>大地震等で水が使えなくなった場合を想定し、糞尿を微生物に分解してもらう方法を災害が起こる前に実際に体験、検証する案</p> <p>数年前地方のオフグリッドゲストハウスに滞在しそこで初めてトイレコンポストを体験。その臭いのなさ、快適さに驚きました。とは言え都心では場所もないし無理だろうと当時は考えておりましたが、予想を遥かに上回る災害が続く昨今、出来ないという思い込みを変える必要があるのではと思うようになりました。もしこの案が実現するのであれば大幅な水の節約及び悪臭を放つトイレゴミの保管問題、トイレゴミを燃やすエネルギーの削減につながります。問題点は以下の通りです。</p> <p>1 場所の確保<br/>2 体験した事のない方々に理解してもらいにくい<br/>3 利用方法の周知徹底(うんちとおしっこが混ざる事によりひどいにおいが発生する。おしっことうんちを分けるちょっとした工夫が必要)<br/>4 使い方を指導管理する人材の確保<br/>5 数あるトイレコンポストの中でどういった物を選んで使うのか 等々<br/>特に2と3は大きな課題です。<br/>そこである一定数の人だけで検証してみて感想を話し合ったり更なる問題を洗い出す必要があると考えます。</p> <p>この考えに賛同して下さる大学などあれば提携して実験を進める事が出来るのではないのでしょうか。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>震災時のトイレは、震災救援所となる学校や第二次救援所となる地域区民センター等にマンホールトイレを設置するとともに、収便袋や凝固剤等を備蓄しています。トイレコンポストは、都市部においては、公共施設・各家庭そのいずれにおいても、スペースまた発生する堆肥の活用の観点から、設置することは困難です。</p>  |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>震災時の活用という点では対象事業としてふさわしくないと考え、本提案は令和6年度参加型予算制度モデル実施要項6（2）に定める第二次審査（以下「第二次審査」という。）の対象外としました。</p> |
|--|--|

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>防災×安心</p>  |
|                       | <p>区が現在行っている感震ブレーカー設置支援では夜間の震災では不安がある。そこで感震リレーを使うことで3分後にブレーカーが自動遮断されるので3分明かりが確保される事で、夜間の避難や退路確保などの準備ができる。ほとんどの家は非常灯は完備されておらず、いきなり暗くなった時の不安は計り知れない。</p>  |
| 2                     | <p>夜間に震災が起こる事もあります。<br/>震度5強相当の地震波を感知すると、3分間電源ランプが点滅およびブザーが鳴動した後、主幹ブレーカを自動遮断します。<br/>地震波感知から3分の間に停電が発生すると、復電時に主幹ブレーカを自動遮断します。<br/>停電後8秒以内に地震波を感知すると、復電時に主幹ブレーカを自動遮断します。<br/>地震でいきなりブレーカーが遮断されると視界が奪われ不安や避難の妨げになる要因が考えられ、<br/>このように感震ブレーカーではなく感震リレーを使うことで得られる安心・メリットはかなりあると思われます。<br/>身を守るためにテーブルや机などの下に潜るにも、もし火がついていて火を消すにも、明かりがあれば行動が早くなります。<br/>地震でドアがゆがんで開かなくなることがあります。いつでも逃げられるように、地震が起きたら窓や戸を開けるようにするにも明かりがあると無いとは違います。<br/>避難するために行った行動で割れたガラスを踏んで怪我したり事を避けれますし、倒れそうな物や冷蔵庫など危険な物が見えれば人は近づきません。<br/>感震リレー要救助者がある程度減らす効果はあると予測できます。<br/>また配電盤の電気工事が必要な為、区の事業で避けなければならない転売の心配も少ないです。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>阪神淡路大震災や東日本大震災など大規模地震時に発生した火災の6割以上が電気火災です。杉並区では、震災時の火災・延焼を防ぐための感震ブレーカー設置支援事業を既に実施していますが、地域別火災危険度ランクが高い地域では設置費を無償とするなど、特に力を入れています。<br/>限られた予算の中では、様々な機能を有する感震リレーではなく、震災時の火災・延焼を防ぐための感震ブレーカーを広く設置支援していく考えです。<br/>なお、停電時に活用できる非常用ライトを含めた備蓄等については、引き続き周知に取り組んでまいります。<br/>以上の理由から、本提案は第二次審査の対象外としました。</p>   |

|   |              |
|---|--------------|
| 3 | 井戸水で猛暑も楽しもう！ |
|---|--------------|

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>災害時に水が使えなくなることは、想定しておかなくてはならないひとつである。杉並区内には震災時生活用水井戸の設置・修理助成の制度があるのでその周知とメンテナンスとともに、夏休みの子供の思い出作りのイベントとして井戸水を使った水遊びなどを行う。</p> <p>登録されている防災井戸で、小規模なイベントを実施できる場所をピックアップ。夏休み期間の数時間を予定して、小学校低学年生を中心として水遊び実施とともに、防災井戸を知ってもらえる説明を行うことで、自由研究の題材にしてもらえることも期待。親世代に防災井戸の存在を知ってもらうことにもつながり、区民への周知にもつなげる。また、この機会に井戸の作動のチェックもしていただけるとよい。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました(投票番号1番)。なお、投票事業とするにあたり、熱中症対策及び台風によるイベントの中止を避けるため、夏休み期間ではなく、5月に予定している柏の宮公園での「みどりのイベント」及び10月から11月に実施される震災救援所訓練の中で開催するよう提案内容を修正します。</p>   |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>防災端末</p> <p>各世帯に防災無線放送塔から発せられる放送内容を受信できる端末を配布し、防災無線放送塔の音声が届かないエリアにも区からのお知らせが届くようにする。防災無線だけに頼らないことで確実に防災情報が伝えられる。防災端末次第では、資格情報での情報発信が可能となるほか、振り込め詐欺などの防犯情報を発信すること、時間に捉われず情報を発信することが可能となる。</p>  |
| 4                     |  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>杉並区内の防災行政無線放送塔の放送内容を屋内で聞き取ることができる機器として、戸別受信機がありますが、放送内容を受信するための互換性を持つ戸別受信機は型番が決まっております。機器本体の設置に加えて、受信用の専用アンテナの設置・ケーブルの配線といった作業を行う必要があります。作業1件当たり20万円前後の経費がかかるため、参加型予算の上限である2,000万円以内で事業を実施することが難しく、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>なお、防災行政無線の放送塔からの放送内容を確認できるその他の媒体として、メール配信サービス・電話応答サービス・電話通報サービスを既に提供しており、区民の方にこれらの媒体をさらに活用していただけるよう引き続き周知に取り組んでまいります。</p> |

|   |  |
|---|--|
|   | <p>居住地における災害時の避難場所の明確化</p> <p>杉並区では災害時にどこへ避難するかは「暮らしの便利帳」に明示されている。しかし、より狭い範囲での個々の災害の避難場所を各家庭に配布する必要がある。便利帳のような冊子ではなくB4サイズ程度のポスターとして、各家庭で見える箇所に貼ってもらってはどうか。</p> |
| 5 |  |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>区内には、自治会や町内会が多く存在し掲示板も多数ある。役員の高齢化など運営に支障が出ている会も多々あるようだが、旧態依然とした活動内容にも問題があるようにも思える。よりその町内に密着したきめ細かな活動がもとめられる。この組織を杉並区としてより活用すべきではないか。海外ではあまり例のない素晴らしい組織である。</p> <p>この組織を利用してきめ細かな避難マップ、災害時の初期対応を配布したらどうだろうか？</p> <p>私も自治会の部長として回覧板などを回しているが、あまり良く読まれている形跡がないのが現状です。会員の方からは、どこが指定避難所なのか分からない、そばの川が氾濫したら避難所に行けないなどの声があります。</p> <p>回覧はすぐ忘れてしまいますから、狭い地域に対応したこのようなビラは自治会及び町内会に各戸個別配布をお願いしたらどうですか。</p> <p>家の然るべき場所に常に掲示できるように体裁も工夫すべきだと思います。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区では、震災時における避難所及び防災関係施設の周知は重要であると認識しています。能登半島地震から1年となる1月1日号の広報すぎなみで、防災特集の記事を掲載し、全戸配布を行います。併せて、震災時の避難所などを示した防災マップを挟み込み、全ての区民に配布する予定です。</p> <p>以上のことから、区で既に防災マップの全戸配布の検討を進めているため、第二次審査の対象外としました。</p>  |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>防災アニメーション作成</p> <p>防災意識を高めるための動画を YouTube の杉並区公式チャンネルで公開する事業。動画の発注先は杉並区で開業しているアニメーション会社とさせていただきます。</p> <p>YouTube で取り上げたい動画の内容として、私が個人的に一番見たいのは「災害用伝言ダイヤル」の使い方です。たまにネットで情報を見ますが、覚えられません。</p> <p>杉並区在住の小説家さんや漫画家さんに原作を発注し、ストーリー仕立てのアニメーションで印象深く使い方を知らせるような動画があればいいなと思って提案させていただきました。</p> <p>また、アニメのイラストを使って災害用伝言ダイヤルやその他の防災情報のポスターなどを作成・展示すれば災害時にも活用しやすいと思います。</p> <p>(YouTube だけではスマホの充電がなくなったら確認できないため)</p> <p>また、区内の会社に仕事を発注することは文化の発展につながると感じています。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>   |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 7 | 区立公園内での太陽光発電、蓄電 |
|---|-----------------|

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>区立公園に太陽光パネル、蓄電システムを設置し夜間照明の電力源とする。管理が可能であれば、非常時スマホ、防災無線への充電可能とする。</p> <p>区立公園に太陽光パネル、蓄電システムを設置する。</p> <p>①災害、システム障害、テロなどにより停電が発生しても、区立公園内は照明点灯。周辺住民に不安を与えない。</p> <p>②区立公園は、昼間の太陽光発電、充電による電力で夜間照明を行い温暖化対策に貢献する。</p> <p>③管理が可能であれば、停電時、災害発生時に住民のスマホ等情報端末、地域にある防災無線への充電を可能とする。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました(投票番号2番)。</p> <p>なお、投票事業とするにあたり、提案内容のうち太陽光パネルで発電した電力を防災無線への充電に活用するという部分については、十分な電力を確保できるか等の課題があり、検証期間が必要なため、提案内容を修正します。</p>  |

|   |  |
|---|--|
|   | <p>防災 x 環境。「水の架け橋」参画。備蓄水をダブルのエコに。</p> <p>●「賞味期限 12 年のアルミボトル缶入り備蓄水」と、災害時に飲料水を支援し合える事業者・自治体向け「水の架け橋ネットワークシステム」。自助と共助を両立させる今までに無かった製品サービスです。</p> <p>●防災 x エコ(環境問題と経済性)「交換・廃棄コスト削減」「海洋プラ削減」ダブルのエコを実現します。</p> <p>●「ジャパン・レジリエンス・アワード2024」優秀賞を獲得。</p> <p>賞味期限 12 年のアルミボトル缶備蓄水と災害時の相互支援ネットワークシステム「水の架け橋」への、都内最初の自治体の加入を<br/>「水の架け橋」の事業代表として、また1 杉並区民として提案します。<br/><a href="https://mizuno-kakehashi.com/">https://mizuno-kakehashi.com/</a></p> <p>■効果</p> <p>①「備蓄水の長期的な購入費・維持費の手間削減」</p> <p>②「脱プラ・SDGs・循環型社会への貢献(PET ボトル使用減・海洋プラごみの発生抑制)」</p> <p>③「災害時の飲料水不安の解消」</p> <p>④「備蓄不足の改善」(自助機会の創出)</p> <p>⑤「助け合いの提供」(共助機会の創出)</p> <p>■製品</p> <p>①「賞味期限 12 年のアルミボトル缶備蓄水」</p> <p>自治体や事業者では、一般的に賞味期限 5 年程度の 2L・500ml の PET ボトルが採用されていますが</p> <p>「購入コストを抑えたい」「保管・廃棄・交換の手間」「環境負荷の低い製品を選びたい」「現在の備蓄で足りるか不安」という課題があります。</p> <p>「水の架け橋」の備蓄水の容器には PET ボトルとは異なり、空気や水蒸気、紫外線を通さないアルミボトルを採用。</p> |
| 8 |  |



|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>賞味期限が長いことから、交換や廃棄にかかる手間やコストを削減できます。PET ボトルではないため、脱プラ・SDGs・循環型社会にも貢献します。</p> <p>また高齢者や子供など力の弱い方でも持ち運びできる 500ml ボトル缶を採用。リシールができ、飲み口も従来よりも大きく設計しています。</p> <p>②「水の架け橋ネットワークシステム」</p> <p>備蓄水を購入いただいた事業者や自治体は、購入量、保管場所、賞味期限などの情報を一元管理できるとともに被災の際は加入した近隣加入者に支援要請を出すことができるシステムです。</p> <p><b>■採用事例</b></p> <p>南海トラフ地震や豪雨に備える自治体や、環境問題に先進的な事業者様での採用が進んでいます。2025年大阪・関西万博にも採用されています。</p> <p>内閣官房国土強靱化推進室の「レジリエンス認証」を認定する機関「一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会」より優秀賞もいただきました。</p> <p><b>■UACJ について</b></p> <p>グローバルに事業を展開するアルミニウム総合メーカーで、飲料缶、自動車、IT 機器、空調、航空宇宙産業などの幅広い分野にアルミ素材を供給し、暮らしや産業を支えています。</p> <p>2013年に古河スカイ株式会社と住友軽金属工業株式会社が経営統合し発足した会社で、アルミ圧延を開始してから 125 年以上の歴史を持ちます。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は、営利目的又は特定の個人若しくは団体のみが利益を受けるものであると判断し、第二次審査の対象外としました。</p>  |

|   |  |
|---|--|
| 9 | <p>防災を楽しく理解しよう、そしてつながろう</p> <p>災害が起きた時に近くに住む方や知人とともに災害に立ち向かうために、災害への準備と近隣住民とのコミュニケーションが必要です。</p> <p>この二つをスムーズに行うため「杉並防災三銃士」が活躍します。</p> <p>「杉並防災三銃士」は、駅や公園など人が集まる場所で、フラッシュモブの形式で災害などの準備に必要な「住まいの工夫」「食の工夫」「つながりの重要性」を人々に伝え、聴衆に杉並区 LINE 登録を促す。</p> <p>現状：災害の事前準備については、テレビ、雑誌、Web、SNS などで語られており、杉並区においては Web や SNS で防災情報を掲出しているが、防災に意識が向いている方のみが閲覧していると考えられる。</p> <p>課題：Pull 型（自ら情報取得しない方）の区民に対する災害事前準備が十分でない。</p> <p>目的：</p> <p>①災害などの準備に必要な「住まいの工夫」「食の工夫」「つながりの重要性」を人々に伝えます。</p> <p>②防災の意識が高い方々を杉並防災連絡帳登録という形で可視化する。</p> <p>方法・手法：</p> |
|---|--|

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>①災害など事前準備や災害時の区民連携の重要性をスムーズに伝えるために「杉並防災三銃士」を設定する。</p> <p>②杉並防災三銃士は、駅や公園、広場など人が集まるところで、フラッシュモブの形式で災害などの準備に必要な「住まいの工夫」「食の工夫」「つながりの重要性」を人々に伝えます。</p> <p>フラッシュモブは週末や祝日などに行われ、杉並の SNS で動画を拡散します。</p> <p>③フラッシュモブが終了した後は、参加者に杉並 LINE 登録を促します。LINE に登録すると災害などで必要な時に区からの連絡を受け取ることができます。また、この際に LINE した方を通じて区のメンバーが登録した場合、インセンティブを供与します。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | 本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。  |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 10                    | 防災警報   |
|                       | 拡声器の拡充   |
|                       | 現在の警報は非常に聞き取り難い。特に強い雨の時は戸締りをしており、外の音は聞き難い。拡声器を各所に分散させて、もっと聞き易くする。特に風の強い時、風上側は聞き取れない。現状をもっと把握して設置して貰いたい。  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>杉並区内の防災行政無線放送塔の放送内容を屋内で聞き取ることができる機器として、戸別受信機がありますが、放送内容を受信するための互換性を持つ戸別受信機は型番が決まっており、機器本体の設置に加えて、受信用の専用アンテナの設置・ケーブルの配線といった作業を行う必要があります。作業1件当たり 20 万円前後の経費がかかるため、参加型予算の上限である 2,000 万円以内で事業を実施することが難しく、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>なお、防災行政無線の放送塔からの放送内容を確認できるその他の媒体として、メール配信サービス・電話応答サービス・電話通報サービスを既に提供しており、区民の方にこれらの媒体をさらに活用していただけるよう引き続き周知に取り組んでまいります。</p> |

|    |   |
|----|---|
| 11 | 情報共有プラットフォームの構築   |
|    | <p>地域の住民や行政機関との情報共有を容易にするためのモバイルアプリの開発。アプリ内での災害情報の受信や地域コミュニケーション機能の提供。</p> <p>(今の状況・課題) 情報伝達体制として、無線放送、メール配信サービス、Twitter (X)、LINE アカウント、アプリ「すぎナビ」(→評価 2.3 落ちる、使えないと口コミ有) 複数あるがバラバラ、一つにまとめたい</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>1. リアルタイムの情報共有…リアルタイムの情報受信による迅速な状況の把握を可能にする。(Twitter やメールなどのプラットフォームより即効性が高い(1つにまとめるという目的もある))</p> <p>2. 位置情報を活用した避難情報の提供…ユーザーの位置情報を利用して災害時の避難情報や案内(自身の現在地に応じた具体的な対策)を提供</p> <p>3. カスタマイズ機能…アプリは特定の地域のニーズや要求に応じてカスタマイズ可能である。→地域ごとの異なる要求に対応するために、柔軟な機能追加や変更が可能である。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>杉並区公式 LINE は、今年度から機能を拡張し、リアルタイムの防災情報や位置情報を活用した「すぎナビ」にたどり着きやすくなりました。また、通報機能の追加や令和7年1月から開始するセグメント配信では、個々に合わせた情報を提供します。アプリ機能を国内屈指の普及率の LINE が包含できるので、本提案は第二次審査の対象外としました。</p>   |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>子ども向け参加型防災訓練まつり</p>  |
| 12                    | <p>子どもがあまり意識しづらい、どうすればいいのかわからない防災関係のことを毎年おまつりとして取り上げることで子どものうちから意識を高めさせる。</p> <p>(今の状況・課題) 水害が多い、自身、火災、意識(正常バイアス)、道路などの整備が必要</p> <p>正常バイアスを逆手にとって、毎年防災訓練まつりでの防災活動に参加したら子どもにお菓子配布して、毎年開催することにより、正常バイアスでつねにまつりがあり、お菓子がもらえると認識することにより、子どもや保護者など防災を身近に感じさせる効果が見込める。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>  |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>無題</p>  |
| 13                    | <p>食料・防災グッズを3日分～1週間分全家庭に提供する。<br/>(今の状況・課題) 災害時の備蓄が備えられていない。(自分含め)</p> <p>災害時に助かる。いざその時にスーパーやコンビニから食料不足にならない。<br/>(供給不足)</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>   |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 14                    | 大人、子ども楽しめる参加型イベント  |
|                       | 大人・子ども自由に壁に絵を描き、その壁を仕切りに使い、避難所に使う。<br><br>(今の状況・課題) ニュースを見ていると、日本は避難所は一つ一つに仕切りがなく、被災で疲れている人たちが休まらないと思った。しかし、台湾地震のニュースをみたら、避難所に一つ一つ仕切りがあり、とても快適そうだなと思った。なので、避難所をみんなで強化したら良いと思った。  |
|                       | 大人や子どもが楽しく協力して、工作で色々なデザイン(被災者が少しでも、笑顔や安心感を取り戻してくれるよう)を用いて、仕切りを作る。そのことで、被災者の疲れが休まる空間が作られる。  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>震災救援所には、ダンボール仕切材を備蓄しているほか、能登半島地震の震災を踏まえ、今年度追加配備する予定です。適切な保管等の観点から、各震災救援所での備蓄物の活用は困難であると考え、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>訓練の際に区役所から仕切材を持ち込んで組立体験を行っていますので、子ども連れで参加してもらいペイントをしてもらうイベントを取り入れるなど検討してまいります。また、実際に震災した際にそういったイベントを企画するなど、震災時の心のケアも引き続き研究してまいります。</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 15                    | 道路の拡張工事とバス救助  |
|                       | (今の状況・課題) 道が狭い、住宅が密集しているため、火災が起こりやすい、道が狭いと逃げきれない、といった問題がある。   |
|                       | 狭い道路を拡張しバスが通れるようにする。バスは多数が乗れるため、多くを助けられる。   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>これまでも区では、地域の防災・減災機能を向上させるとともに、日常生活における安全で快適な通行のために狭い道路を4mに拡張する事業を進めており、今後も引き続き取り組んでまいります。一方で、区が運行している南北バスすぎ丸については、小型のバス車両のため比較的狭い道路においても運行が可能となっておりますが、現行の法令(車両制限令)では相互通行の場合、少なくとも道路の幅が5.7m以上必要となり、狭い道路においては、民間の中型・大型バス車両はもとより、小型のすぎ丸車両でも運行は困難となっているため、第二次審査の対象外としました。</p> <p>災害時におけるバスの活用については、「杉並区地域防災計画」や「杉並区地域公共交通計画」により、バス事業者と連携を図り、代替輸送等に取り組むこととしております。</p> <p>その取組の一つとして、今後、災害時の緊急電源として有益であるすぎ丸車両のEV化を含め、運行事業者とともに災害時の活用等について検討してまいります。</p> |

|    |           |
|----|-----------|
| 16 | 消防団員を手伝おう |
|----|-----------|

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>中学生に消防設備の利用方法を覚えてもらい、消火作業にあたっている人の負担を少しでも減らそう</p> <p>(今の状況・課題) 火災時、消防署は点在しているが、家屋が多いので人が足りなくなる可能性が高い。</p> <p>初期消火が迅速になり、被害が抑えられる。</p>  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区立小学校においては、4年生を基本に、防災学習の一環として防災館に赴き、消火器を使用した体験などを行っているところです。また、区立中学校では、中学生レスキュー隊を全校に設置しており、消防署の協力による合同訓練や防災体験学習施設への見学、区の総合震災訓練への参加等を行っています。</p> <p>以上のことから、本提案は区の既存の取組と重複すると判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>有事の際の自助につながるよう、今後もこれらの取組を継続してまいります。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>防災運動会！</p> <p>なし</p> <p>where:地域の小学校で実施(モデル校として実験的に)<br/> who:「小学校の先生+区の職員+町内会員」の三者で協力し、主に小学生と地域の有志(希望者)<br/> 17 what:運動会の競技内容を防災グッズを用いた内容に考案<br/> 例)非常用はしご競争、防災水タンク運搬競争、消火器発射的当て、おんぶ紐でおんぶ走、借り物競争(防災グッズしぼり)、簡易トイレ組み立て、パン食い競争(備蓄食料を使って)<br/> 期待される効果:<br/> ①地域の人と交流機会をつくることで、有事の際も協力関係構築<br/> ②防災グッズの使用方法や活用方法を学ぶ機会の獲得<br/> 懸念ポイント:集客をどうするか?(景品をつける、出会いの場に?)</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました(投票番号3番)。なお、「防災運動会」の実施にあたっては、次の方法を検討しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杉並区青少年育成委員会が「防災をテーマにした運動会」を実施する場合に、区がその必要経費を補助。</li> <li>・ 社会教育センター主催のすぎなみ U30 ミーティングにおける「すぎなみみんなの大運動会」の一種目として、「防災」の趣旨を取り入れた種目を実施。</li> <li>・ 区主催で「防災をテーマにした運動会」を実施。</li> </ul> <p>本事業が採択された場合、実施方法によっては、「小学校の先生+区の職員+町内会員」の三者協力による実施が馴染まないほか、イベント内容のうち全てに「防災」の趣旨を取り入れることが難しいため、提案内容を修正します。</p> |

|    |            |
|----|------------|
| 18 | 安全な避難経路の周知 |
|----|------------|

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | なし   |
|                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所までの安全な経路の詳細情報<br/>→歩道の状態、段差、傾斜</li> <li>・1枚の紙面で配布</li> </ul>  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区では、震災時における避難所及び防災関係施設の周知は重要であると認識しています。能登半島地震から1年となる1月1日号の広報すぎなみで、防災特集の記事を掲載し、全戸配布を行います。併せて、震災時の避難所などを示した防災マップを挟み込み、全ての区民に配布する予定です。</p> <p>以上のことから、区で既に防災マップの全戸配布の検討を進めているため、第二次審査の対象外としました。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | 若い人向けデジタル情報（アプリ）の活用<br>高齢者向け地域グループの利用  |
|                       | なし   |
| 19                    | <p>1. どこにいても杉並区民全員が災害時の情報をキャッチできることを目的とする。</p> <p>2. ①区が主導権をもって発信することによって、共通した情報を得られる。アプリダウンロードに関する案内（QRコード）を誰の目にもつく状態にすることが必要</p> <p>②地域グループが中心となって、情報提供（資料など勉強会含）することによって、災害時の対応を可能とする。各地域グループが交流していないので区からの情報の提供が必要となる。</p> <p>※区のHPを見に行かなくても届くシステム（言語変換もできる）</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | 本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。  |

|        |   |
|--------|---|
|        | 街灯のソーラー化+LED化+蓄電池の設置  |
|        | 全ての道路の街灯の給電をソーラーパネル化する。   |
| 20     | <p>災害時や大規模停電時に電力に頼らず継続できる。</p> <p>街灯は高位置にあるため、いたずらされるリスクは低い。</p> <p>停電時もつくことで、防犯上避難時にもメリットがある。</p> <p>蓄電池を備えることで、区民の給電スポットにもなる上に、防災無線・wifiを兼務すれば、そこへも給電できる。LED化でメンテナンスも少なく済む。</p> |
| 区<br>の | 本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました（投票番号4番）。  |

|             |   |
|-------------|---|
| 考<br>え<br>方 | <p>なお、全ての道路の街路灯をソーラー化することは、参加型予算の上限である 2,000 万円以内で行うこと、及び道路上に街路灯等を設置できる高さの規定（建築限界）から不可能です。そのため、投票事業とするにあたり、建築限界を満たし、予算内で効果が期待できる駅前広場へのソーラー街路灯設置に提案内容を修正します。</p> |
|-------------|---|

|    |   |
|----|---|
| 21 | 南北区道路の無電柱化  |
|    | なし  |
|    | <p>杉並区の南北の道路は環八・環七を除いて狭くて交通量が多い。小池都知事の無電柱化は青梅街道等メイン都道だけが対象？また、私は成田東の家改築で4メートル道路セットバックしたが、電柱だけ残る。中杉道路延長は住民の反対で計画が進まない。まずは無電柱化を進めるべきである。（南北の狭くて交通量が多い道路具体的には成田東項番～五日市街道の道路や鎌倉街道等）<br/>効果は交通安全・震災・火災・停電対策・環境美化</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>無電柱化を進めていくためには、参加型予算の上限である 2,000 万円を超える多大な経費と多くの時間を要するため、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>道路地下部には電力線や通信線などをまとめて収容する電線共同溝を設置するための空間の確保に加え、地上部には変電装置等の機器を設置するための道路用地が必要になるなど、整備に当っては様々な課題があります。区では、無電柱化を計画的かつ重点的に進めるため、平成 29 年 11 月に「杉並区無電柱化推進方針」を策定し、都市計画道路事業に合わせた整備を行うほか、歩道の無い生活道路については、整備効果の高い路線を選定し、順次整備を進めています。</p> <p>引き続き、コスト縮減方法や新工法についての検討を行いながら無電柱化を進めるとともに、安全で災害に強い道路整備に努めてまいります。</p> |
|-----------------------|---|

|    |   |
|----|---|
| 22 | 青梅街道の自転車専用レーン設置                                 |
|    | なし  |
|    | 青梅街道等自転車は歩道も車道もあぶない。歩道が広い分半分位自転車専用レーンを設置する。交通安全 |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>都道である青梅街道の整備は区の管轄外であるほか、区道の整備においても単年度の事業完了が困難なため、第二次審査の対象外としました。</p> <p>引き続き、安全な道路環境の整備に取り組んでまいります。</p> |
|-----------------------|--|

|    |          |
|----|----------|
| 23 | 防災アプリの開発 |
|----|----------|

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>平時は防災情報を配信し、災害時には災害情報を配信（気候・公共交通機関）その代わりメール配信サービスを廃止</p> <p>区民が情報と取りに行くのではなく、区の方から積極的に配信をすることがポイント<br/>普段区政と接点の少ない区民にも情報が届くようになる。</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>杉並区公式 LINE は、今年度から機能を拡張し、リアルタイムの防災情報や位置情報を活用した「すぎナビ」にたどり着きやすくなりました。また、通報機能の追加や令和7年1月から開始するセグメント配信では、個々に合わせた情報を提供します。</p> <p>アプリ機能を国内屈指の普及率の LINE が包含できるので、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 24                    | <p>正しい情報をネットに広めよう</p> <p>ネット上で杉並区が一般に正しい情報を広げる</p> <p>正しい情報を必要とする区民に届けるため、杉並区内で発生したとされる SNS のデマ情報・投稿を技術・サービスを導入し正しい情報のみ広がるような情報管理サービスの備えをする。</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>SNS のデマ情報については、杉並区は1ユーザーでしかないため、それらを発見後、それぞれの提供事業者に削除依頼を行うことしかできないのが現状です。また削除されることになったとしても、依頼から削除まで時間がかかることも見込まれます。以上の理由から実施が困難と判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>区民に正しい情報を得ていただくため、区の公式アカウントの認知度を高める取組を地道に行っていきたいと考えます。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 25                    | <p>防災マップを拡充しよう</p> <p>なし</p> <p>区民に情報が充実したマップを配布（トイレ・水（井戸）、電気（充電）、ネット（wifi）、ハザード</p> <p>（現状）関心がある人しか見ていない（ので）公園の入口とか、公共施設、学校、交通の要所で（見られるようにする）</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区では、震災時における避難所及び防災関係施設の周知は重要であると認識しています。能登半島地震から1年となる1月1日号の広報すぎなみで、防災特集の記事を掲載し、全戸配布を行います。併せて、震災時の避難所などを示した防災マップを挟み込み、全ての区民に配布する予定です。</p> <p>以上のことから、区で既に防災マップの全戸配布の検討を進めているため、第二次審査の対象外としました。</p> |



|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | 防災×雨水タンクアート  |
|                       | 自宅の庭に、街角に。住民が気軽に生活に取り入れることが出来る雨水タンクに、子どもたちのアートの花を咲かせよう！  |
| 26                    | 杉並区で助成金交付の取り組みも行っている雨水タンクですが、まだまだ庭先や街角で目にする機会は少ないです。杉並区内の小学校と連携し、雨水タンクを設置して希望する方に「雨水タンクアート」として、子どもたちの自由な発想で描かれる絵を描く取り組みを希望します。雨水タンクは、個人が気軽に設置出来て、庭の水やり・洗車等に利用出来て節水が出来て、暑い時期の打ち水や、災害時の生活用水にも利用出来ます。また善福寺川を有する杉並区が、住民参加で出来るグリーンインフラ・治水対策としても、小さな一步一步が大切だと思います。単なる雨水タンクに子どもたちの明るい絵が描いてあれば、道行く人たちの目に留まり、どんどん雨水タンクのアートの花が街に増えていくことを期待しています。   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は、雨水タンクを設置する希望者に対し、区内小学生が雨水タンクに絵を描くことにより、道行く人たちの目に留まり、子どもたちのアートの花を咲かせる、といった提案です。</p> <p>雨水タンクはペイントに適した素材や形状を選ぶ必要があるため、区が雨水タンクを指定して、小学校などの協力を得て、ペイントした雨水タンクアートを希望者に対して配付するといった方法が考えられますが、この場合は、区が指定したタンクが、希望者の住宅の大きさや用途によって適さない可能性があることから、需要がどの程度あるのか未知数です。</p> <p>一方で、これまでの助成件数は、年間10～20件程度であり、雨水タンク助成者のうち希望者に対して雨水タンクアートを設置するとした場合、雨水タンクを協力校に運搬してペイントした後、希望者宅へ設置する等、設置まで時間を要することや保管場所、破損への対応等の課題が考えられます。</p> <p>また、雨水タンクは、個人の住宅敷地内の雨樋に設置されることから人目に付きやすい場所とは限らず、場合によっては通行人が敷地内を覗き込むような状況も考えられ、防犯上（プライバシー保護）の観点からも課題が考えられるところです。</p> <p>以上のことから、雨水タンクに子ども達のアートを取り入れることは魅力のある提案ですが、設置場所や設置数によっては啓発効果に疑問が生じると考え、第二次審査の対象外としました。</p> |

|    |   |
|----|---|
|    | アニメ「防災・減災」  |
| 27 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・減災の知識の普及が事業の目的です。</li> <li>・平時から区民にわかりやすく防災・減災の方法を解説します。</li> <li>・家庭、地域、個人でも、できるだけ、あらかじめ、日ごろから備えることが大事だとわかってもらいます。</li> </ul> <p>以上を、アニメで解説・紹介する事業です。発信はデジタル（ウェブ）を活用します。</p> <p>☆まず、この事業提案はまだアイデア段階であり、内容・推進方法などは今後の検討次項です。予めご了解ください。</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>○平常時からの準備が防災や減災には有効であると区のホームページを見てわかります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭でできること（防災備蓄や耐震の各種準備）</li> <li>・地域でできること（防災訓練や独居ご老人のこと）</li> <li>・個々人でもできること（会社から自宅までの徒歩帰宅訓練）</li> </ul> <p>をデジタル（例えばユーチューブが親しみやすいと思います）で発信します。</p> <p>○コンテンツの製作はなるべく区内の事業者を活用してください。アニメーション制作会社さんが本件にご協力していただけると杉並区らしさを意識して事業を推進していることが区民の皆さんにも伝わるのではないかと思います。</p> <p>○リーフレットやポスターによる広報も有効だと思います。その作成にも区内のアーティストさんの活用を検討してください。</p> <p>↓</p> <p>○効果検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金額ベースでの効果測定が難しい事業だと思います。</li> <li>・デジタルでの発信は、例えば「再生回数」はわかりやすいです。</li> <li>・ユーチューブなら「チャンネル登録者数の増加」も大事です。</li> </ul> <p>区民の皆さんに防災・減災が大事であることを見て、感じてもらえるコンテンツとなることが課題です。</p> <p>コンテンツをできれば最後まで、飽きずに、見てもらえる工夫が必要です。</p> <p>○最後に</p> <p>この事業推進が実現し、結果として、いざという時に平時からの準備や備えが活きて、安全に一人でも多くの方の命が助かるように願います。</p> <p>能登半島の震災をみて、今回は「杉並区らしいやりかた」での取り組み案として提案いたしました。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>  |

|    |   |
|----|---|
| 28 | <p>避難者登録情報管理の改善</p> <p>現在、避難者登録カードは紙に手書きで記入することになっており、①集計に時間が掛かり、②電子情報への変換時は誤入力される可能性が高く、③救護所独自の様式の場合は区全体での集計で取り難い状態にあります。そのため、震災発災後の救護所の避難者の人数、連絡先などの基本情報が正確かつ迅速に把握できない可能性が高いと思われます。この課題を改善する目的で「避難者登録情報管理の改善」を提案させていただきます。</p> <p>区では震災救護所運営管理標準マニュアルの（初動編）「避難者の受付」に、（資料・様式編）「様式4 避難者登録カード」を用いて、受付で避難者に必要な情報を記入することとしています。「様式4 避難者登録カード」は紙に手書きで記入するため、要約に記入しましたようにいくつかの課題があり、避難者の人数も含めて、基本的な情報が正確かつ迅速に把握できない可能性が高いと思われます。</p> |
|----|---|

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>能登半島地震では、特に被害が大きかった地域で、救援所に避難している人数把握が困難を極め、適切な支援が行えなかったことが、杉並第一小学校震災救援所運営連絡会の会長の立場として、発災時の課題として記憶に残っております。</p> <p>については、上記課題を改善する目的で、杉並区のすべての震災救援所を対象とした、避難者登録カードの電子化とそれに伴う様式の統一化を提案させていただきます。情報管理の改善はいくつかの段階を経て行うこととし、初期段階では「各震災救援所での避難者数の迅速な把握」を最優先の課題と位置付け、区役所といくつかの救援所が連携を取る形で、試験的に試作したシステムを用いて、様式や運用方法を検討します。次にシステム仕様や運用がある程度確立した段階で、訓練内容も含む展開計画を作成します。最終段階では「新しい運用」を、震災救援所訓練の重点項目として位置付け、区全体で定着化を図ります。なお、発災時の通信、サーバーなどの障害発生も想定し「避難者登録カードの電子化」のみの運用とはせず、紙媒体の活用など何らかのバックアップ運用の検討も必要と考えます。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>震災救援所の避難者情報や備蓄品の管理が正確かつ迅速に対応できるシステムが必要だと考え、令和6年度から3か年計画で震災救援所の運営に関するデジタル化の施行実施を予定しています。また、国や都、他自治体と連動できるシステムの導入を検討しています。</p> <p>以上のように、本提案は区で既に検討を進めているものであるため、第二次審査の対象外としました。</p>   |

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| <p>29</p>                        | <p>雨水浸透事業</p> <p>杉並区道の舗装にカッターをいれて、雨水を浸透させる事業です。降雨時に既存の排水溝への流量を減らす効果を期待します。</p> <p>区道のうち（透水性舗装を除く）降雨が浸透せずに、排水溝へ流れ込む場所を事業対象にします。特に坂道などの低地部分には、水が滞留しやすいため、坂道の勾配部分を中心に、堰き止めるようにランダムにカッター溝をつくり、雨水を路盤へ浸透させます。透水を期待するため舗装の厚みまでカッターを入れていく単純作業です。防水壁など構造物をつくるものではなく、掘削なし、残土も出ません。作業の際発生する泥水は清掃します。コスト面では、機械損料、機械操作作業員、清掃員、カッター刃の消耗品程度です。派手さはないものの、確実に排水溝経由の流量を減らすことが期待できます。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>雨水を透水しない一般的なアスファルト舗装では、経年劣化に伴いひび割れが発生した場合、アスファルトを支えている砂利などの層（支持層）へ雨水が侵入することになりますので、支持層部分が徐々に緩み、舗装の劣化が進み易くなります。アスファルトをカッターで切った場合もひび割れと同様に、舗装の一体性が低下するとともに、舗装の劣化や振動・騒音が発生する要因ともなりますので、第二次審査の対象外としました。</p> <p>区では、水害対策や地下水の涵養などを目的として、交通量の少ない区道において、計画的に透水性舗装化を進めており、令和6年度から年間の整備面積を倍の6,000㎡に増やしたところです。</p>  |

|  |
|--|
| <p>坂道部分を透水性舗装にすることは舗装材料の特性上不向きとなりますが、ご提案の坂道の下（低地部分）など平坦で交通量が少ない路線では、透水性舗装化が可能な路線もございますので、計画的に取り組んでまいります。</p> |
|--|

|   |
|---|
| <p>防災 カケル 農業</p>  |
| <p>○区内農産物を非常食として備蓄する事業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・缶詰やレトルト食品、あるいはフリーズドライなど保存のきく食品にして備蓄します。</li> <li>・備蓄のほかに、区民は有償で購入することもできるようにしてほしいです。</li> <li>・取り組みの初年度は少量でも、次第に増やしてください。</li> </ul> <p>取り組みには外部の事業者、例えば JA や食品会社等の協力が必要だと考えています。</p>   |
| <p>○本件はアイデアの段階であり、事業の具体化には検討すべき事項や課題があると思います。</p> <p>平時のうちに検討し、できることは準備しておくのがよいと思い、提案します。</p> <p>○非常時の保存食についての考え方は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養価が高く、健康を維持できる</li> <li>・調理がしやすいか、または調理不要な食品</li> <li>・食欲がわく食品、ということだと考えています。</li> </ul> <p>缶詰やレトルト食品は、アレンジすることで多様なメニューを作ることができますので</p> <p>30 これらの考え方に適していると思います。</p>   |
| <p>保存食の備蓄を杉並区で取り組む際には、区内の農家さんの野菜や果物を取り入れた</p> <p>「杉並の非常食」とするのが地元ならではの準備だと思っています。</p> <p>また、区の備蓄（公助）に加えて、区民自らの備蓄（自助）も重要です。この「杉並の非常食」を各家庭でも予め備蓄しておくことができれば安心です。区民は有償で購入し、数日分ストックしておけば、いざという時に慌てません。</p> <p>事業には、地元農家をはじめ、地元農協、加工するための食品会社、それを流通するための食品卸・食品小売りの事業者に協力を仰がなければなりません。これらの</p> <p>とりまとめに区が主導的に取り組んで協働してほしいと思っています。</p> <p>水や食品をバランス良く備蓄することで、災害時の安心につながります。この事業を効果検証するのは数字では難しいかもしれませんが、非常時に備えるのは平時である今だと思っておりますので、ご検討をよろしくお願いいたします。</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>現在、杉並区の農家や農地面積は減少傾向にあり、元々農産物の生産量が少ない上、農家の大半は少量多品目で農産物を生産しており、主に自家消費や軒先販売、直売所への出荷などを行っております。</p> <p>こうした中でも、地産地消を推進するため、即売会の開催のほか、区内農産物を学校給食に使用する「地元野菜デー」の実施などに取り組んでおりますが、農産物の生産量確保に苦慮している状況です。</p> <p>ご提案の事業は防災や地産地消の推進につながるほか、廃棄予定の規格外の野菜も使用すれば食品ロスにもつながり、環境にも配慮した非常に良い提案だと考えますが、区内農産物を非常食とするためには、生産者（農家）の提供できる農産物の状況把握と必要な調整、また、実施可能な製造・加工事業者を見出した上で、当該事業者と区、生産者（農家）との綿密な連携調整が必要となること、加えて、生産量が少ないため、商品の大量製造が難しいことから、少量製造による販売方法やコストが上がることによる単価設定など、様々な課題があり、短期的に実施することは難しいものと考え、第二次審査の対象外としました。</p> <p>ただし、ご提案の事業は地域の生産者と消費者を結びつける非常に有効な取組になると考えられることから、今後、農産物の生産状況や廃棄野菜等の現状把握、他区市の取組などを調査研究するとともに、消費者のニーズの把握に努め、中長期的に検討してまいります。</p> |
|-----------------------|---|

|    |  |
|----|--|
| 31 | <p>区民のいのちを守るみどりを区民の手で広げよう！</p> <p>いまや自然災害ともいえる厳しい夏の猛暑ですが、このような気候変動の影響を最小限にするための個人の努力を超えた対策が急がれます。都市樹林、街路樹と住まいの庭木の「みどり」は環境の中でどのような役割、ちからをもっているのでしょうか。「みどり豊かな 住まいのみやこ」を掲げる杉並区の現状を知り、それらを守り育ててゆくために何ができるかを区民参加型のセミナーを通して学び、提案する企画です。</p> <p>1) 地球温暖化と「みどり」<br/>⇒A) 参加者は気候変動の基本的知識を学び、危機的と言われる「みどり」の現状を学び発表します。</p> <p>2) 都市計画と「みどり」<br/>芝生の緑地があればよい？現在神宮外苑ほか都立公園において進行中の大型再開発による都市樹林の伐採の問題点を探ります。樹齢 100 年の木と若い苗木は何が違う？木の種類と環境との関係を学び発表します。<br/>⇒B) ロッシェル・カップさんほか、多くの都市計画の専門家、文化人が 50 年、100 年の古木が伐採される計画の明治神宮外苑の森を守れと声をあげています。その現状について学び、発表します。上記の方を講師に招き、区民に開かれた形のセミナーも開催します。</p> <p>3) 街路樹の役割と管理について<br/>市民参加型の管理方法をドイツほか他地域の現状に学びます。<br/>⇒C) 杉並区が管理する年月を経た中杉通りのケヤキ並木についてお聞きします。街路樹の専門家藤井英二郎先生に基礎知識と世界の都市における街路樹の育成と管理について学びます。</p> <p>4) 都市樹林と遊歩道について<br/>すべてのみどりはつながっています。</p> |
|----|--|

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>⇒D) 遊歩道のある善福寺川、神田川、玉川上水の生態系から樹木、野草、野鳥がそれぞれ密接にかかわっていることを専門家である高槻成紀先生に学びます。</p> <p>5) 「みどり」をいかに増やすか<br/>住宅や大型建築の建築の際に古木の保存に手立てはないのでしょうか。また建築物の広さに応じて樹木を植える基準を設けるなど緑化を進める条例化が可能か探ります。</p> <p>⇒E) 銀座1～8丁目全域で商店街ごとに街路樹の育成に取り組んでいます。全般に詳しい銀座デザイン協議会事務局長の竹沢えりこさんによる講演を提案します。</p> <p>6) 身近な「みどり」に親しむ<br/>公園や街路樹の落ち葉掃除を現在の「花咲かせ隊」「すぎなみ公園育て組」の活動を一歩進めて有償ボランティアといったかたちで地域活動のなかに組み込む案を検討します。</p> <p>⇒新規「みどりポイント」発行案；リサイクル、エコユースを主眼とした市民活動に参加すると与えられて、趣旨に賛同する店舗や事業者のサービスを受けられるようにします。</p> <p>7) みどりの相談会実施<br/>専門家による個人対象の園芸相談会の開催。こうした場を通して、花好きの人同士の地域の交流が広がることが期待されます。</p> <p>以上、区民参加の活動を通して「みどり」をキーワードに区内環境の見直しと地域交流の充実を図ります。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>ご提案の事業は、防災・減災に関する提案ではないと整理し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>みどりの価値や役割を学ぶ機会の創出については、杉並区をフィールドに活動されているボランティアの方々との協働による情報発信や環境教育などにより、今後区民が自分ごととしてみどりのことを考え、一人ひとりがみどりに関する取組を実践するようにバックアップをしていきます。</p>  |

|    |   |
|----|---|
| 32 | <p>無電柱、無電線化と交通事故ゼロ</p> <p>区道や住宅街の狭隘道路に多数ある電柱、電線の地中化を推進し、街の景観を美しくする。電柱を地中化した狭隘道路にはバンプ設置と歩行者の避難スペースの設置する。</p> <p>国道や都道は電柱や電線の地中化が進んでいるが、それ以外の道路は一向に変わらない。</p> <p>防災の観点からすれば、狭隘道路こそ地中化を推し進めなければ、緊急車輛の通行妨げは一向に改善されない。</p> <p>狭隘道路での電柱が地中化されると、今度は車輪の通行が容易になり、走行速度が上がるのが予想される。そこで、車輪の速度を抑制するためのバンプを置くとともに、歩行者用の避難スペースを確保することで交通費事故の抑制2つなげる。</p> <p>これらの実施により、災害時での緊急車輪や復興車輪の通行が容易になり、怪我人救助、消火活動が進無とともに早期復興につながる。</p> <p>また、街の景観も美しくなる。</p> |
|----|---|

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>無電柱化事業は、参加型予算の上限である 2,000 万円を超える経費がかかるものであるため、第二次審査の対象外としました。</p> <p>無電柱化するためには、電力線や通信線などをまとめて収容するための電線共同溝を設置することから道路地下空間の確保に加え、地上部には変電装置等の機器を設置するための道路用地が必要になるなど、狭あい道路での無電柱化には様々な課題があり、極めて困難です。区では、無電柱化を計画的かつ重点的に進めるため、平成 29 年 11 月に「杉並区無電柱化推進方針」を策定し、都市計画道路事業に合わせた整備を行うほか、歩道の無い生活道路については、整備効果の高い路線を選定し、順次整備を進めています。引き続き、この取り組みを進めるとともに、安全で災害に強い道路整備に努めてまいります。</p> <p>また、区道へのハンプの設置については、夜間の歩行者等の転倒や通過車両による振動・騒音の発生が懸念されることから、現在のところ積極的な設置は控えているところであり、区道の事故や交通量が多い路線を選定して、計画的かつ優先的に交差点や路側帯のカラー舗装化等による安全対策を進めているところです。</p> |
|-----------------------|--|

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 33                    | <p>震災救援所等の備蓄品管理のデジタル化推進（GS1 標準コード）</p> <p>国内の震度 6 強以上の地震は 15 回発生しており震災に対する意識も変化しており杉並区災害救援所の備蓄品等についても予算含め多方面から見直しが進められている。</p> <p>一方少子高齢化により救援所の運営についても高齢化の波が押し寄せ備蓄品の管理運営についても様々な課題がある。マイナンバーカードの活用が進められていく中で救援所の備蓄品等の管理についても GS1 標準コード等を活用したデジタル化を推進していく必要がある。</p> <p>2011.3～2024.1 の期間において日本国内の震度 6 強以上の地震は 15 回発生しており震災に対する区民意識も変化している。デジタル化により自動識別技術を活用することが可能となり、GS1 標準コード（バーコード、QR コード等）をリーダー等で読み込むことで備蓄品等の在庫管理、使用期限管理（消費期限など）など多方面で業務の効率化が見込める。また備蓄品等を管理する職員等の業務についても省力化につながる（働き方改革にも寄与）。参考までに GS1 標準コードは医薬品医療機器等法（略して薬機法）改正により 2022 年 12 月より医薬品、医療機器に表示等が義務化されており医療機関等でも GS1 標準コードの活用が推進されている。</p> <p>震災救援所の避難者情報や備蓄品の管理が正確かつ迅速に対応できるシステムが必要だと考え、令和 6 年度から 3 か年計画で震災救援所の運営に関するデジタル化の施行実施を予定しています。また、国や都、他自治体と連動できるシステムの導入を検討しています。</p> <p>以上のように、本提案は区で既に検討を進めているものであるため、第二次審査の対象外としました。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 |  |

|    |            |
|----|------------|
| 34 | 調和の森コミュニティ |
|----|------------|

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>地域の居場所づくりを提案します。どの世代も人生を楽しみ、困ったことがあれば誰かに相談ができるという希望の持てる居場所を作っていただきたい。いじめ問題や引きこもり問題のある家庭の方の相談場所。菜園を通じた心のセラピー、楽しんで作物を収穫する交流場所。多世代交流の場所。音楽を通じた交流場所。</p> <p>現代人にとって他者との交流を深めることは必要不可欠だと思っています。何か問題ごとがあったときに相談できる駆け込み寺のような場所が必要だと感じています。今の時代、そうはいてもなかなか他者との交流を深めることが難しいと感じます。心を開き色んな人と交流することは勇気が要ることです。誰もが安心して訪問でき、気軽に交流したり、相談したりできる居場所があれば、解決する問題もあるかもしれません。</p> <p>特に思うのはいじめ問題です。大人のいじめ問題、こどものいじめ問題どちらも昨今は非常に凶悪です。このようなひどいいじめに対処するためには多くの人々の協力が不可欠です。</p> <p>いじめ問題を解決するためには引っ越しするなど色々な対処法があると思いますが、お金がなければ引っ越しも学校を変わることも、職場を離れることもできません。そのような問題のある人達がとにかくまずは居場所を確保し、さまざまな苦悩から逃れることができる場所が必要だと思います。問題解決はそこからようやく取り組むことができます。</p> <p>また菜園があることでそのような方々のセラピーになります。また火災が広がるのを防ぐことができ、収穫を皆で楽しみ、交流することができます。居場所としてのスペースを確保し、多世代交流の場、引きこもり、いじめ問題などの相談の場となります。菜園やビオトープを通して生き物や作物にふれたり、物々交換や収穫体験によって自然への感謝の心を育てることもできると思います。音楽（打楽器やギター）による癒し効果が期待できます。当方音楽経験者です。</p> <p>フリーマーケットの開催が少なくなっているので、フリーマーケットの開催も提案したいと思います。中高生であれば、売る楽しみ、買う楽しみ、値段設定を決めるなど勉強になることがあると思います。また不要品を誰かのために再利用でき、ごみを減らすことにも貢献します。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>ご提案の事業内容のうち、防災に係るものは菜園による延焼の防止の部分と整理いたしました。延焼火災対策においては、区では空地確保等の観点から都市農地の確保、公園等の整備などを行っています。</p> <p>ご提案の菜園について、区では自然にふれあい、都市農業への理解を深めていただくとともに、農地を都市の緑地として保全するため、野菜や花などを栽培できる区画をお貸しする区民農園を、令和5年度に新たに開設した井草区民農園を含め計7か所整備しています。</p> <p>また、都市農地の保全と都市農地が持つ多面的な機能を福祉分野において効果的に活用していくため、農福連携農園で、障害者・高齢者等のいきがい創出や健康増進、若者等の就労支援、幼児の食育・自然体験など福祉施策等の実施効果を高める取り組みを区内教育機関や産業団体等と連携し実施しています。加えて、成田西ふれあい農業公園においても、講座や子ども農業体験イベントを実施しております。</p>  |



|  |
|--|
| <p>以上のことから、本提案は区の既存の取組と重複すると判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>今後も区民が農に親しむことができる場であり、かつ災害時には避難場所となる都市農地の保全に努めてまいります。</p> |
|--|

|    |  |
|----|--|
| 35 | <p>学校地域防災事業</p> <p>杉並区における地域防災力向上を目指し、学校と地域が連携した防災活動を推進する事業です。学校における防災活動を地域住民が参加可能にし、有償ボランティアとして誘致します。また、その周知や募集のため、デジタルプラットフォームを活用します。以上の取り組みを行い、学校が地域防災の中心となり、地域が一体となって災害に対処する強固なネットワークを構築することを目指します。</p> <p>現在、杉並区では「防災会」など地域ぐるみで防災活動を行う組織が立ち上げられています。しかし、住民の約75%がその存在を知らず、地域防災に対する意識は以前低い状況です。公的な救助が間に合わない場合、必要とされるのは地域住民同士の「共助」であり、防災・減災にはこのような地域社会全体での協力である「地域防災」が非常に重要です。</p> <p>このような地域防災への認知度が低い理由は、そのような活動を知る機会があまりないことにあると考えられます。</p> <p>そこで私が提案させていただくのは、「防災×学校」によって地域防災力の向上を目指す学校地域防災事業です。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における防災活動を、地域住民参加可能なものにする</li> <li>・地域住民が学校に集まるような、活動を認知できる仕組みを作る</li> </ul> <p>という二つの施策を考えています。</p> <p>学校における防災活動に地域住民を誘致することで、地域ぐるみの防災活動を行うことができ、学校という場所を通してネットワークが形成されます。</p> <p>また、地域住民が学校に集まる仕組みについては、以下を考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民を有償ボランティアとして集める</li> <li>・活動の周知や認知を行えるデジタルプラットフォームの活用</li> </ul> <p>有償ボランティアとすれば、地域住民にとってメリットが提示され、学校に集まりやすくなることが考えられます。</p> <p>また、地域住民が学校活動に参画できることの周知や、有償ボランティアに関する連絡や採用等に関して、それら全てをネット上で行えるようなデジタルプラットフォームは非常に有効であると考えられます。そのようなシステムを活用できれば、地域住民が学校の活動に参画するハードルは大幅に低下することが予想できます。</p> <p>上記の地域住民を学校に集めるという構想は、文科省が推進している「コミュニティ・スクール」に非常に近いものがあります。地域人材がより学校の活動に活かされるようになれば、防災の課題のみならず、学校教員の負担の低減や生涯学習活動の充実につながります。</p> <p>以上のように、本事業は杉並区における地域防災力を向上させるための有効な手段となります。学校を地域防災活動の中心とすることで、地域社会全体が一体となって防災意識を高め、災害時に備えるネットワークを構築することが期</p> |
|----|--|

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>待されます。それによって、地域防災力はこれまで以上に強固なものとなり、地域全体で災害に備えることができるようになると考えられます。</p>  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区では、区立学校等を震災救援所に指定し、発災時の防災拠点として位置づけています。</p> <p>区立学校等の震災救援所は、町会や防災市民組織・学校運営協議会委員や学校支援員・PTA等が委員として運営をしていただいています。また、地域大学で学んだ方が地域防災コーディネーターとなり、震災救援所の運営に参加していただくことを推進するなど地域の防災力向上を目指し、学校と地域が連携した救援所運営を行っています。</p> <p>有償ボランティアについて、震災救援所は、町会等地域の人による地域のための組織であり、有償といった概念とは相いれないと考えます。</p> <p>また、提案のあった「活動の周知や認知を行えるデジタルプラットフォームの活用」ですが、区では、地域課題の解決を目的とした地域の主体同士（区民・地域団体・事業者・教育機関等）のつながり作りを、区が伴走・支援していくツールとして、令和5年10月に地域共創型ポータルサイト「すぎなみプラス」を開設したほか、区の設定するテーマ（事業）に対して、サイト利用者（区民等）が意見やアイデアを投稿し、コミュニケーションを活性化させていくツールとして、本年7月1日に「すぎなみボイス」を開設したところです。震災救援所の更なる発展を目指し、これらのツールとの連携含め、検討してまいります。</p> <p>以上のように、本提案は区の既存の取組と重複する部分や、実施が困難な部分があると判断し、第二次審査の対象外としました。</p> |

|    |   |
|----|---|
|    | <p>地域と共に学ぶ：子供たちの未来を守る防災意識向上プロジェクト</p>   |
| 36 | <p>災害に対して自分で考え行動できることが最大の防災と考えます。学生たちが年齢に応じて、正しい知識と正確な情報を得るためのテキスト作成し、身近なこととして意識を高めるためにワークショップを開催します。</p> <p>災害に備えて準備すること、自分の住まいや建物は責任をもって管理すること、地域での対策や災害時の協力体制等も理解し、参加する意識を持つことがすべての人を安全にすることを学んでほしいです。</p> <p>様々な災害に対して自分で考え行動できるようになることが最大の防災と考えます。</p> <p>そのために日ごろから正しい知識と最新の情報を得ること、様々な場所、時間での災害のシミュレーションをしておくことが大切です。学生達が学ぶヒントとして年齢に応じたテキストを配布し、ワークショップでの調査と分析、ディスカッションを通じて、身近なこととして意識を高めるという企画です。</p> <p>学齢が上がると行動範囲が広がります。自宅からの移動のルートと外出先の建物や移動手段、地域の特性等を連続した線と面で確認しておく、災害時に冷静な行動ができ将来に備えられます。</p> <p>小学生は、災害をイメージできるように、地震体験車、防災館見学、杉並の過去の災害時の写真等資料を利用します。そして災害時に自分のスペース、自宅、学校、外出先、経路はどうなるかを考えてみます。自分で出来る対策をグループでディスカッションし、家族と内容の確認を行います。</p> |

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>中学生では、個人での活動範囲が広がります。まず、全国の災害での被害状況を整理します。次に、交通、商業、宿泊、レジャー関連施設等の他、自然環境の海岸、山、川などについてグループで調べ、災害時の状況とどのように行動するべきかお互いに学びます。安全の度合いを判断するには何を確認すればよいか理解を深めます。自宅内各所の安全性を見直し、備蓄や在宅避難の際の必要なものについてディスカッションします。</p> <p>高校生は、将来杉並を離れて自分で住まいを選ぶこともあります。安全な地域、建物、暮らしのための準備の時期です。また、社会の一員として協力や提案などができることに気づき自覚してほしい時期です。</p> <p>ハザードマップ等を使い危険度を調べ、更に土地の歴史と地形、地域地区等の特徴を調べることで建物の耐震基準を知ることが重要です。防災に関する国、都、杉並区の対策を知ること、災害の危険性を理解できます。自分の将来の住まいを想定して発表しあうとお互いに気づきがあります。また自宅の備えを主体的に行い、ライフラインが停止した想定で一日体験するのも想像力を養うのに役立ちます。地震風水害以外にもビル火災、ガス漏れの爆発や防犯についても知ってほしいです。</p> <p>災害に備えて準備すること、自分の住まいや建物は責任をもって管理すること、地域での対策や災害時の協力体制等を理解し、参加する意識を持つことがすべての人の将来の安全な暮らしに繋がります。</p>   |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>区立学校においては、安全な生活を営むために必要な事柄について児童・生徒が理解できるようにするとともに、心身の発達段階に応じて、地震等の災害時に安全な行動ができるような態度を身に付けられるよう様々なことに取り組んでいます。災害から身を守るための正しい知識を身に付けるため、全区立学校の児童・生徒に向けて、杉並区教育委員会作成の防災副読本「地震に備えて」をデジタル配信しています。同副読本は、児童・生徒が実際の災害時の行動をイメージできるように杉並区の地図を用いたり、震災時の写真を掲載したりするなど、児童・生徒にとって災害を自分事として捉えられるようにしています。また、災害時に自分自身が取べき行動や友達と話し合っただけを書き込めるようなページ構成になっており、グループ学習や話し合いによる防災教育を進められるようになっています。さらに、「防災マニュアルミニブック」では、災害発生時の各家庭の避難場所について確認するページも設けています。学校で学んだことを基に家庭でも防災について話題にし、親子で情報を共有した上で各家庭の実情に応じて災害に対する備えを考えられるような工夫をしております。</p> <p>また、全区立小学校において、東京都内にある各防災館を訪問する体験的な防災教育を実施しています。防災館では、児童に対して専門施設での本格的な体験学習を実施するとともに、専門家によるレクチャーも実施しています。地震体験車と同様の体験ができる地震体験室もあり、全ての児童が首都直下型地震発生時の揺れや避難方法について体験できるようになっています。中学校では、杉並区教育委員会の事業として行っている杉並区中学生レスキュー隊の活動に取り組み、体験的に防災活動を学ぶ機会を生徒に提供しているほか、理科の授業等では自然災害について考える授業も実施しています。さらに、「東京マイ・タイムライン（東京都作成の冊子）」などを活用した災害時の避難行動などの学習も進めています。なお、「総合的な学習の時間」の授業においては、提案のあった身近な「防災」をテーマに取り組んでいる事例もあります。</p> |

|   |
|---|
| <p>高校については、私立・都立ともに区における権限を持っていないため、実現困難です。</p> <p>以上のように、本提案は区の既存の取組と重複する部分や、実施が困難な部分があると判断し、第二次審査の対象外としました。</p> |
|---|

|    |   |
|----|---|
| 37 | <p>街頭消火器による多文化共生オリエンテーリング大会</p>   |
|    | <p>杉並区に設置の初期消火用具約5千基の街頭消火器をオリエンテーリングのポスト（通過ポイント）に見立てて、事前選出5チーム（1チームは障害者、外国人含む5人構成）が、各自で設定の集合場所から大会開始時間にスタート、事前設定の各エリア別に、事前配布の地図を頼りに任意の5か所のポストを巡り、区役所前ゴールに到着する速さを競う大会です。ポスト通過の証拠に各消火器の状況を確認し、携帯端末で写真を撮ります。</p> <p>■テーマ「街頭消火器による多文化共生オリエンテーリング大会」地図で自分の身近な屋外消火器設置場所と状況を楽しく仲間と確認しながら町の防災への様々な意識を向上させる。</p> <p>■目標と目的</p> <p>①区の居住者、勤務者、活動者への防災意識の芽生えと向上の機会創出。自分の関わる町の防災理解の一助となる大会。一歩踏み出し町に出る。参加者と区との防災コミュニケーションの一助。区の地図配布は参加者への防災資料提供機会。参加者の区への街頭消火器の状況報告は、すみやかな是正対応への協力的行為。</p> <p>②参加が楽しみな大会の実施と様々な機会の創出。関わる全員がわくわくする催し。みんなでスポーツを楽しみながら防災を意識。一人よりグループで協力し他人への理解（多文化共生を含む）を深める人的交流。</p> <p>自ら歩く、走る、自転車走行、又は車椅子の人との帯同など災害時移手段への考察（車は不可。交通機関利用可）。普段から災害に備え体力保持の必要性実感。地図を活用し防災スキルを高める。</p> <p>■大会</p> <p>事前実施</p> <p>①主催者は大会実施日を決め参加者を募る。②参加対象は区の居住者、勤務者、活動者で原則1人で自立行動のとれる人。③主催者は外国人と障害者各1人以上含む5人1チームを1単位に募集。募集チーム数を設定しチーム分け。④主催者は街頭消火器位置のわかる地図で、区内で参加チーム分のエリアを設定。⑤主催者は大会開催前、参加者全員を区役所に集め、チームメンバーと運営側の顔合せが主の事前説明会を開催。⑥事前説明会時、主催者配布の各エリア地図で大会当日の集合場所を決め、移手段を確認。当日欠席を考慮しメンバー相互で連絡先の交換を行う。</p> <p>当日</p> <p>①雨天開催。②各チーム設定の場所に集合したメンバーで、大会開始時間にスタート。③地図を頼りに任意の5か所のポスト（街頭消火器）を巡り、回り終えたらゴールの区役所前に向う。④ポスト通過の証拠に、消火器の状況（いたずら書き、ケース破損など。）を確認して、必ず携帯端末で写真を撮る。⑤ゴールに到着する速さを競う。各チームはゴールで主催者に各消火器の写真提示と、必要があれば状況報告をする。問題無ければ到着の速いチームから順位（優勝は</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>1位)が付く。⑥全チームのゴール後に表彰式で主催者から、優勝と最下位のチームのメンバー全員に賞状と記念品を授与。<br/>以上</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>街頭消火器については、基本的に消火器が設置されている場所の近隣住民が使用することを目的としています。</p> <p>オリエンテーリングは、地図とコンパスを持ちながら野外を走りまわる競技ですが、ご提案内容は杉並区の住宅街や車両が通行する道路を、地図を持って走り回るものとなっています。このため、スマホを見ながら歩く、走るなどをしてしまうことも予想され、人、自転車、車との接触など移動に懸念があります。</p> <p>また、区内の別々のエリアから区役所に集合するまでのタイムを競うとなると、公平なコースを設けることは現実的に厳しく、競技の公平性の担保が難しいほか、障害者をチームの一員にする場合、様々な障害の種類や程度の方がおり、個別事情が影響してしまうため、タイムレースとしての実施は難しいと考えます。</p> <p>以上の理由から、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>なお、歩くことの楽しさを普及するため、公益財団法人杉並区スポーツ振興財団が既に春と秋の年2回、区民歩こう会を実施しています。</p> <p>街頭消火器の設置場所については、区のホームページ（すぎナビ）で情報公開しており、外国人に対して実施している防災イベント等の中で街頭消火器についての説明も行っています。</p> <p>また、街頭消火器については、毎年、業者との委託契約により点検（落書き、破損等の確認を含む）を実施しており、不備等が確認された場合は速やかに対応しています。</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>畳堤で家を守る事業</p>  |
| 38                    | <p>岐阜市の長良川、兵庫県竜野市の揖保川、宮崎県延岡市の五ヶ瀬川、全国で三カ所で設置している事例を知り、河川が多い杉並にも導入できるか提案するものです。河川が増水した時に、「畳」を使って堤をつくり、浸水を防止する事業です。</p> <p>河川は東京都の管理のため、区道、私有地に設置することを前提。ハザードマップで示されている浸水予想エリアのうち、河川からの浸水を防ぐために住民が自ら設置するものです。河川と民地の境界に畳を横に立てて並べていきます。廃材として廃棄されるような畳を利用します。浸水時、畳は水を吸収して保水するので、防水壁の代わりになります。畳を連続して差し込み、固定する装置を設置する必要があります。ふだんは柵として使用して、豪雨時に畳を差し込みます。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>杉並区では、水害の恐れがあるときには垂直避難を推奨しています。また、気象情報や降雨量など勘案し、避難所を開設します。浸水対策として土嚢の貸し出しなどを行っており、区民に対しては、極力河川へ接近しないよう周知しているところです。</p> <p>ご提案の畳堤ですが、揖保川においては1950年から数年間で建設され、当時は家庭に畳があることが一般的であることも普及した要因かと推察されます。現在自主防災活動のシンボルとなっているそうです。現在は、畳を使用してい</p>  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>る住宅が減り、サイズも小さくなり、住民の持ち寄りも現実的ではなくなったことから、現在は市が畳を備蓄し、自治会などが管理しているとのこと。</p> <p>杉並区内を流れるような都市河川は、短時間で河川水位が上昇することが特徴で、特に近年頻発する線状降水帯による降雨やゲリラ豪雨などでの対応においては、河川へ近づくこと自体が危険となることから本提案は事業実施不可能なものとして第二次審査の対象外としました。</p> <p>また、畳堤と呼ばれる本取組には、高さ 60 cm の橋の高欄に似たコンクリート製の堤防が必要となります。まずは畳を設置する堤防を整備するコストがかかるという面からも、参加型予算の枠組み中で取り組むのは困難であると考えます。</p> |
|--|---|

|    |   |
|----|---|
| 39 | <p>学校に行こう！みんなのワンストップ地区避難所づくり</p> <p>区内公立学校＋外国人学校の屋上に蓄電付き太陽光発電と雨水タンク、浄水装置、携帯トイレ、区民農園機能、太陽熱調理器などを揃え、いざという時に使えるようにするため、日頃から、それらの機能を知る、触れる、助け合う人々の顔を知る様々な機会（お祭りや野菜配布、宿泊体験会など）を作り、情報発信なども工夫し、万が一の時に使える体制を構築しておく。</p> <p>地震、台風、火災、様々な災害発生時のためにどれだけ準備をしている人がいるのでしょうか。避難場所はあるけれど、行ったことがない、良く分からない、というのがほとんどではないのでしょうか。また杉並には外国をルーツに持つ人も多く住んでおられ、外国人学校もあります。しかし、いざという時に言葉の壁もあって助け合えるのだろうかという不安があります。テレビでは、時々大量の備蓄品を見せながら、災害時にはこんなに必要ですと、大量の備蓄品や防災グッズを紹介しています。しかし、日々の暮らしで精いっぱいの方々が多い中で、いつ起こるか分からない災害のためにそのような大量の備蓄を個人で行っている人はそう多くないと考えています。そうした仮説をのものと、いざという時のために個人個人の備えに期待するのではなく、区全体（地域単位）で安心安全に避難できる場所づくりを目指すべきではないかと考えます。具体的には、区内公立学校＋外国人学校（希望があれば他の施設も）を対象に 1 週間程度は家に帰らずとも過ごせる様々な機能を持った地区避難所を指定あるいは（既に指定されている場合は）強化することを提案します。具体的には、デフォルトで学校の屋上に蓄電付き太陽光発電と校庭に雨水タンク、浄水装置、携帯トイレを備えるほか、区民農園機能、太陽熱調理器などを揃えます。そして、地域住民がそこにある様々な機能を知り、使えるようにするために、地区のお知らせや区報あるいは SNS などでも知らせたり、年間不定期に、夏祭りや農業体験、野菜配布、レンタルスペース、宿泊体験会をするなどして、日頃からそれらの機能を少しずつ知ってもらえるような普及啓発活動を行っていきます。地域住民の何パーセントかでもその存在を知り、そこに集う人々と顔なじみになっておくだけでも、いざという時に、避難していない地域住民に手分けして声をかけることもできます。主な施設を学校としているのは、太陽光発電などの備品施設は再エネなどの環境教育にもつながりますし、子どもたちが学んでおくことで、いざという時に、子どもたちを通して、親やその周囲の人、地域住民に声をかけやすくなります。外国人学校を含めることは誰ひとり取り残さないという SDGS の考えにもつながります。つまり、防災のための防災ではなく、日頃から</p> |
|----|---|

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>備える仕組みとしてまちづくりや環境教育の一環になる防災対策を目指していきたいと考えています。</p>  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区では、区立学校等を震災救援所に指定し、発災時の防災拠点として位置づけています。</p> <p>震災救援所における電気・電源の確保としては、発電機に加え今年度中に太陽光発電設備未設置施設へ蓄電池の配備が完了するほか、太陽光発電についても学校改築等の機を捉え順次設置を進めているところです。水の確保では、雨水タンクや浄水装置は備えていませんが、飲料水を備蓄するとともに、防災井戸を整備し生活水の確保にも努めています。食料の確保では、区民農園機能や太陽熱調理器は備えていませんが、発災後3日間を乗り切るための食料備蓄を進めているところです（令和5年度末で累計2.6日分）。また、マンホールトイレを設置するとともに、携帯トイレや収便袋も備蓄しています。</p> <p>外国人の支援は、外国人向けに多言語（8か国語）・やさしい日本語の防災マップ及び啓発チラシを作製するとともに、杉並区交流協会及び文化・交流課と連携し、日本語スピーチコンテストや外国人向けウォークラリーなどのイベント等で周知しているところです。</p> <p>以上のことから、本提案は区の既存の取組と重複する部分が多い判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>周知については、区公式ホームページ・広報誌で行っているところではありますが、発信方法や頻度を工夫するなど、今まで以上に区民の皆さんに理解していただけるよう努めてまいります。</p> |

|    |  |
|----|--|
|    | <p>SUGINANIMATION（杉並×アニメーション の造語）</p>  |
| 40 | <p>防災に関するアニメの作成・配信ならびにTシャツやエコバックなどの商品企画・販売。</p> <p>防災に関する「お願い」「知っておいてもらいたいこと」「ルール」「場所」「連絡先」など、災害時に実用的な情報を、アニメ日本一の街 杉並ならではの伝え方で広める。</p> <p>課題：<br/>防災に関する情報は区から提供されていることは知っているが、やる気や楽しさをもって取り組むことが難しい分野なので、仕事として防災に関与していない人の記憶には防災情報は残りにくく、災害時に迅速に適切な行動をとることが難しいという課題があると思う。</p> <p>解決策：<br/>杉並区はアニメ制作所数が日本一の街であり、アニメを取り入れた解決策は杉並ならではの取り組みとなるのではないかと考えた。</p> <p>防災に関する「お願い」「知っておいてもらいたいこと」「ルール」「場所」「連絡先」など、災害時に実用的な情報を、シンプルで楽しく分かりやすく伝えることをテーマとして、ワークショップや公募などを通じて案を練り、アニメ、Tシャツ、エコバックなどに落とし込むことで発信しやすい形に整え、配信や販売で防災情報を提供する。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>パートナー：<br/>杉並アニメーションミュージアム、漫画家、商品製造メーカー、配信・販売者</p> <p>効果：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皆の親しみやすい形となり災害時でなくても身の周りで目に入りやすくなることで、防災情報が皆の興味を引く身近なものとなり、災害時に迅速かつ適切な行動をとることの一助となる。</li> <li>・自身の提案が親しみやすい形に繋がる可能性があることから、楽しく防災活動に参画することが出来、自ずと防災についての知識も深まるのではないかと思う。</li> <li>・著名な漫画家などが事業に賛同し、参画してもらえたら、興味関心が高まりより実効性の高い事業となりうる（例えば、もっと見たくなる動画、もっと着たくなるTシャツ、もっと使いたくなるエコバックになる）。</li> <li>・アニメの配信や商品販売により運営費用を賄うことで、持続可能な事業となる可能性がある。</li> </ul> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>   |

|    |   |
|----|---|
| 41 | <p>巡回安全パトカーを災害時に給電でき環境に優しい電気自動車に。</p> <p>排気ガスを全く出さず、モーター音も静かで環境に優しい電気自動車に充電された電池が非常用電源として使用できる利点に着目し、平常時は犯罪発生を未然に防止する巡回安全パトロールカーとして騒音に配慮しつつ温室効果ガス排出削減に取り組み、災害時に停電が発生した際には排気ガスや騒音が相応しくない施設を含む必要とされる場所に機動的に直接駆けつけて電気を供給することができる電動車に安全パトロールカーを置き換える。</p> <p>2022年に策定された杉並区総合計画の実行計画の「防災・防犯分野～みんなで作る、災害に強く、犯罪を生まないまち 犯罪が起こりにくい、犯罪を生まないまちづくり」の「防災・防犯分野～みんなで作る、災害に強く、犯罪を生まないまち 犯罪が起こりにくい、犯罪を生まないまちづくり」の施策2「地域の防災対応力の強化事業、災害時拠点施設の整備・機能拡充」に貢献する。既計画の震災救援所への蓄電池の配備・新規17か所に電気自動車があれば不特定の地域が停電する恐れがある地震や台風などの災害時には、移動する「動く蓄電池」としての特性を発揮することで、避難所等の特定の施設に限らず避難者が電気を使用できるような非常用電源として活用することができる。また電気自動車は音が静かで排気ガスを出さないため、平常時に限らず非常時でも騒音や排気ガスによる健康的・心理的悪影響を極力避けるべき保育園・こども園等の幼児向け施設や老人ホーム等の高齢者向けの施設へも展開することができる。また同時に施策3「犯罪が起こりにくい、犯罪を生まないまちづくり」の事業1「防犯力が高いまちづくり」にも貢献できる。安全で安心して暮らせるまちづくりのための重点施策「巡回安全パトロール・環境美化活動等」が既に区内6箇所ステーションを中心に安全パトロールカーによって実施されているが、</p> |
|----|---|



|  |   |
|--|---|
|  | <p>これを排気ガスや騒音を出さない電気自動車で沿道住民の生活環境に配慮しながら引き続き実施しつつ、加えて防災イベント等で安全パトロールカーからの給電デモンストレーションを行って電気自動車の環境性能や非常時の活用方法についての啓発することにも活用できる。これらによって区民の防犯・防災や環境意識に貢献するだけでなく、施策9「質の高い環境を将来につなぐ気候変動対策の推進」の事業4「区施設の環境対策の推進」の「庁有車を電気自動車等の次世代自動車へ順次切り替えるなどの取組を行うことで、温室効果ガス排出量の削減を推進する」にも「庁有車である安全パトロールカーを電気自動車に切替えること」で貢献できる。つまり杉並区が目指す2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「2050年ゼロカーボンシティ」の実現を防犯・防災に対応する強靱なまちづくりを進めつつ実現するという「環境 x 防災」の相乗効果が得られる。なお費用は補助金を活用して2千万円以下で6台分は賄えると見込む。</p>   |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>杉並区の安全パトロール隊は、直営事業と委託事業の2種類があります。</p> <p>①直営事業については、平日の9時から16時30分頃まで、概ね4台から5台の青色灯パトロールカーで巡回しています。従事者は区職員（会計年度任用職員（一般）で警察OB）です。直営事業の青色灯パトロールカーは、区の所有する車です。</p> <p>②委託事業については、24時間365日、概ね3台から4台の青色灯パトロールカーで巡回しています。車両は、委託事業者の車であり、終日運行の観点から、既存の車両を長時間充電時間を確保する必要がある電気自動車に変更することは、現時点では難しいと考えています。</p> <p>区の所有する車については、杉並区地球温暖化対策実行計画（事務事業編）において、令和12（2030）年度までに全ての庁有車の非ガソリン車化を目指す目標を掲げているところです。当該計画に基づき、直営事業に用いる青色灯パトロールカーについても、全5台のうち、本年度に3台を電気自動車に買い替えるほか、将来的には全台を切り替える予定です。</p> <p>しかしながら、直営事業・委託事業とも、安全パトロール隊の役割は防犯対策であり、平時はもちろんのこと、発災時は杉並区震災復興マニュアルにも記載のあるとおり、いわゆる火事場泥棒の抑止など、一層の重要性が高まるものと認識しています。</p> <p>電気自動車内に蓄電する電気について、外部に給電することは技術的に可能ですが、上記のとおり防犯対策として区内を走行するための燃料としての使用が最優先と考えられるものですので、本提案は実施不可能と判断し、第二次審査の対象外としました。</p> |
| <p>42</p>  | <p>エレベーター内閉じ込め防止備品の設置と安心の見守り訓練</p> <p>最近ニュースでエレベーター内に閉じ込められた場合に備えて、椅子型の防災備蓄を行っているマンションや施設が増えていると聞きました。この住宅のように年寄りが多く住みエレベーターがあるマンションやアパートに設置をお願いしたいのと、設置に合わせて、居住者や地域の防災会やおたっしや訪問で来てくれる方との安否確認訓練、小学校などへの避難訓練を実施いただくことで皆さんの意識が変わるための予算とする。</p>  |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>区民住宅の2階に入居して外出時には必ずエレベーター使っています。年寄り2人世帯で、月1回息子が来てくれますが、能登半島地震の対策などニュースでみると、隣近所の方々や私自身含め、大地震の備えについて、自分ごととしての意識がなく心配です。</p> <p>高齢者が多く住むマンションやアパートのエレベーター内に備蓄品の防災備蓄することにより、居住者だけでなく、地域の方々の防災意識がたくなり、地域の見守り訓練の実施と参加が期待でき安心につながります。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました(投票番号5番)。</p> <p>なお、投票事業とするにあたり、事業の普及を目指すため、補助対象を「高齢者が多く住むマンション」から、広くマンションに変更します。また、補助条件のハードルを下げることによってエレベーター用防災キャビネットの設置が進むと考え、「地域との訓練等によるつながり」については、震災救援所や地域のたすけあいネットワークに関する資料を配布することとします。</p>        |

|    |  |
|----|--|
|    | <p>防災と与謝野晶子</p>  |
|    | <p>与謝野晶子といえば「やわ肌のおつき血汐にふれも見で・・・」「君死にたまふことなかれ」が知られている。しかしそれが彼女の世界ではなかった。晶子は震災、パンデミック、戦争を乗り越え対等な男女関係の救急、働く母親としての悩みを抱えつつ歌人として走りつづけた姿は、私達に大きな勇気と励ましを与えてくれた。杉並区の偉人である与謝野晶子の顕彰は、自然と共存しその力の畏怖と感謝、災害への備への再確認ができる。</p>  |
| 43 | <p>1. 防災と晶子 与謝野晶子の短歌は日本の自然や風土を強く感じさせるものであり、その感性は多くの人々に愛されています。晶子はしばしば自然災害や人間の営みと向き合う姿勢も示しています。自然の美しさとその脆さを同時に捉え人間の在り方についても考えさせる歌や評論を残しました。防災の観点からみると自然との調和やその大切さが見事に表現されています。晶子の歌の中には、自然の力とその予測不能な面に対する畏敬の念がにじみ出ており災害に対する警鐘としても理解できます。</p> <p>2. 防災モデルを兼ねた空き家利用の記念館 杉並区、東京都の取り組みの周知・情報収集伝達体制・備蓄等・震災、水害避難所の確認・地域防災組織等の活動支援・帰宅困難者の一時滞在等</p> <p>3. 与謝野晶子記念館準備 1) 研究会メンバーの拡大と啓蒙(百数十年前晶子の提案した防災や男女の差別の無い「自由・平等」の精神を再確認する) 2) 一般区民を対象に講演会活動(第1回は6月18日に松村先生講師で実施済) 3) 女子大学生等若い人達もメンバーに加え広く浸透させる。 4) 晶子の親族、関係者と接触し遺品を集める。またネット等で全国関連者より遺品を買い取る。 5) 鞍馬寺、堺の晶子記念館と交流を深め遺品の展示交換を行う。</p> <p>4. 費用概略(年間) 合計 19000千円<br/> 空家借用と改装費 3500千円<br/> 百首屏風等遺品購入 10000千円<br/> 図書購入並び事務費 1000千円<br/> 管理費他 4500千円</p> <p>5. 会員 8年前より活動している「杉並昔がたり」のメンバー13名と今後与謝野晶子ファン数名を加える</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p style="text-align: center;">代表 大井妙子</p> <p>6. その効果</p> <p>1) 記念館は空家を利用し最新の防災モデルの紹介しつつ杉並区の取り組みを広く浸透させ、区民はもとより国内へ広く晶子の業績とともに紹介周知させる。</p> <p>2) 晶子の防災関連図書、資料、遺品等を収集し展示することにより、多くの見学者の来訪を期待し、杉並区防災と、晶子の業績を宣伝し顕彰する。</p>                                    |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>与謝野晶子は関東大震災による火災で、長年書き溜めた完成寸前の貴重な『源氏物語』の現代語訳草稿を失うという被災体験をし、その後杉並区に居を構え、居宅跡地は現在公園となっています。</p> <p>確かに、杉並区にゆかりのある著名な文学者ではありますが、参加型予算の「防災×○○」というテーマと、記念館を設けることが密接に連動するものではないため、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>なお、郷土博物館等における展示の一環で与謝野晶子を扱うことは、今後検討してまいります。</p> |

|    |   |
|----|---|
|    | <p>大規模防災訓練×誰でも食堂×地産地消の見直し</p>   |
|    | <p>いつ起こるかかわからない大災害を正しく恐れるために、大規模災害を想定したリアル避難訓練企画。区が主導し広域避難区域全てでの実地訓練に区民が参加する。申し込み不要で誰でも参加できる形式、防災食配布と試食コーナー、トイレ体験、テント設置、全て実際に起こった場合を想定する。物価高騰で食費を節約する区民に防災食の入れ替えも目的とし+地産地消を目標に物産を区が買い支えて、区民に食料配布。企業からの支援も募る。</p>  |
| 44 | <p><b>【事業内容】</b></p> <p>「いつ起こるかかわからない大災害を想定した大規模避難訓練と物価高騰対策を兼ねた食料配布」</p> <p>&lt;詳細&gt;</p> <p>杉並区主催の本番を想定したリアル大規模避難訓練を広域指定地域で行う。実際に体験しなければ、行政側も区民側も想像の域を超えない。本格的な訓練をすることで、今後起こりうる大規模災害への備えをよりきめ細かく準備・対応することができる。</p> <p>実際はいつ起こるかかわからないものだが、日程を決めより多くの区民が参加できる週末に開催し、防災意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災食配布?備蓄の入れ替えと見直しも兼ね、期限が切れる1年以上前の備蓄食料を区民に配布。</li> <li>・試食コーナー?広域避難地域でのリアル食事配布練習で、火起こしから調理まで行う。希望区民も参加可能とする。</li> <li>・地産地消の食材を活用する?実際に災害が起きれば遠方より近くから食材を調達しなければならないことを想定し、行政が調達先を見直すきっかけにする。普段から学校給食に取り入れるなどして地産地消の調達を強化しておく。</li> </ul> |

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
|                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物価高騰対策の誰でも食堂?同時に、食費高騰で困っている区民が多くいるため配布も希望。(区が購入し配布する・ただしこれについては要検討。申込か先着か優先者を決めるなど)</li> <li>・テント設置・トイレ設置?実際に災害が起きた場合を想定し、トイレ準備～体験まで行う。</li> <li>・心臓マッサージや応急処置の体験コーナーを作る?いつでも対応できる区民を増やす。</li> <li>・企業の協賛も募り、防災グッズなど配布。杉並区在勤の従業員とも協力関係を築く。</li> </ul> <p><b>【事業を実施することによる効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の繋がりこそ防災。実地練習により実際に人との関りを作ることが最も大切です。</li> <li>・リアル訓練により防災意識を高め、各自の備蓄準備や心得を持ってもらう。</li> <li>・職員の皆様にも、よりきめ細やかな準備のために本番を想定した体験は必須。</li> <li>・物価高騰で困っている区民も多いので食料配布の形で支援をお願いします。</li> <li>・普段から地産地消の食材確保の重要性を区民も職員も持つことが重要。訓練を通して準備する。</li> <li>・備蓄の入れ替えを早めることで、期限を切らさず有効利用する。</li> <li>・心臓マッサージや応急処置の知識は多くの人がもつことで普段の生活にも活かされます。</li> </ul> <p>以上</p> <p>普段なかなかできない本格的な防災訓練を、区民への食料配布も兼ねて、今回の参加型予算を使って是非実施していただきたいと思います。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>区では、区立学校等を震災救援所に指定し、発災時の防災拠点としているところですが、毎年秋～冬にかけて各震災救援所で震災訓練を行っているほか、自衛隊や消防、警察、東京電力等関係機関と連携した総合震災訓練を毎年1回行っています。震災救援所の訓練では、震災時の救援所の開設や運営に関する訓練を、総合震災訓練では、警察、消防等の関係機関との合同訓練やマンホールトイレの設置要領、自衛隊による炊事訓練を行うなど、今後起こりうる大規模災害を念頭に、防災の機運を高めるべく取り組んでいるところです。</p> <p>地産地消食材の拡大は一朝一夕に進められるものではありませんが、発災後3日間を乗り切るための食料備蓄は着実に推進してまいります。</p> <p>また、上記訓練のほか町会、自治会、防災会等が行う、地域の防災イベント等において、入れ替え備蓄品の提供を行っているところです。</p> <p>企業との連携では、水、食料等の備蓄など帰宅困難者の受け入れに向けた協定を締結しているところですが、更なる拡大に向け、引き続きアプローチしてまいります。</p> <p>以上のように、本提案は区の既存の取組と重複する部分が多い判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>提案で言及のあった「本格的な訓練を通して、今後起こりうる大規模災害への備えをよりきめ細かく準備・対応することができる。」については、区でも同</p>  |

|  |  |
|--|--|
|  | 様の認識ですので、区民理解が進むよう、様々な手段を通して周知してまいります。 |
|--|--|

|    |  |
|----|--|
|    | <p>自転車防災チャレンジ</p>  |
|    | <p>イベントの目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の周りの防災関連施設を知る</li> <li>・近所と助け合える関係を作る</li> <li>・自助のためのスキルを身につける</li> </ul> <p>区内で2日間のイベントを開催します。メイン会場では、自転車修理や非常用持ち出し袋の作り方のワークショップ、自転車を活用した電力発電体験などを実施。そして、自転車防災ツアーでは、メイン会場周辺の緊急医療施設、水や食料の配給場所や炊き出し施設、災害時の衛生管理について学びます。</p>  |
| 45 | <p>家の周りの防災関連施設を知ろう</p> <p>避難場所周辺にある防災関連施設を、ガイドと一緒に自転車で巡りながら、自転車の基本的な修理方法を学び、地域の緊急医療施設への行き方、集合・避難場所、水や食料の配給場所、危険なエリアなどを確認します。</p> <p>近所と助け合える関係を作ろう</p> <p>災害の被害を軽減するためには、高齢者や障がい者、外国人など、支援を必要とする人々をどう助けていくかを学ぶことが重要です。移動や搬送、物資供給の手段として自転車を活用すれば、緊急自動車の通行を妨げず、水や食料、薬などを必要な人々に届けることができます。</p> <p>自助のためのスキルを身につけよう</p> <p>災害時、自転車は自助を促す重要なツールになるはずですが、自転車は、より早くより遠くまで物資を届けられるだけでなく、発電機や移動手段としても役に立ちます。参加者は、自転車の効率性を再確認できるだけでなく、地域について深く知り、災害時にどのように協力し合うかを学ぶことができます。</p> <p>自転車防災ツアールート</p> <p>災害時の避難場所をメイン会場に設定し、周辺にある防災関連施設を巡る、地域密着型の開催となります。イベント自体は2日を想定していますが、和田堀公園一帯、明大和泉校舎一帯、柏の宮公園一帯など、エリアごとの開催が望ましいです。</p> <p>ルート沿いの各チェックポイントで、災害対策に関する重要な情報を学びます。</p> <p>修理エリア：古い自転車を修理する方法を学びます。災害が発生し、公共交通機関や流通網がストップしてしまった時でも、修理やメンテナンス方法を知っていれば、自転車を活用することができます。</p> <p>給水エリア：水は生きるために必要ですが、時には命を奪うこともあります。参加者は水を集める方法、安全に飲むための処理方法を学びます。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>食料エリア：避難生活中、体と心の健康を維持するために食料は必要不可欠です。人々に食料を届けることは、サイクリストが担うべき重要な役割です。</p> <p>衛生エリア：災害関連死を防ぐために重要なのは、避難生活環境の衛生管理です。このチェックポイントでは簡易トイレの使い方を学びます。</p> <p>発電エリア：電力の重要性を確認するチェックポイントです。自転車発電機を使い、生活に必要な電力を生産することがいかに難しいかを体験していただきます。</p> <p>参照資料<br/> <a href="https://cycling-embassy.jp/disaster/suginami/">https://cycling-embassy.jp/disaster/suginami/</a></p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>   |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 46                    | <p>スプリンクラー設置助成（火災リスク低減、節電、熱中症予防）</p> <p>住宅が密集しており、災害時の火災リスクが高い。スプリンクラーで防災する。また、酷暑による電力消費が問題となっている。スプリンクラーを敷地内及び道路に向かって稼働させることにより、暑さの緩和をする。冷房仕様に伴う電力削減と、通行人の熱中症予防を目的とする。</p> <p>下記条件を満たした家に、スプリンクラー設置助成をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 屋外の設置場所の近くに水栓と電源がある</li> <li>2. 庭の水やりではなく、建物や道路に散水することを主目的とする</li> </ol> <p>期待される効果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害時の火災による被害の防止、緩和</li> <li>2. 夏季節電効果</li> <li>3. 通行人の熱中症予防</li> </ol> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>東京消防庁へ照会したところ、参加型予算の制約（単年度 2,000 万円以下）で設置することができるスプリンクラー設備では、火災の延焼を防ぐ効果を期待することはできないとの回答でした。よって防災・減災の要件を満たさないため第二次審査の対象外としました。</p> <p>なお、「地球沸騰の時代」とも表現されるように、酷暑・猛暑は年々激しさを増しています。通行時に限らない熱中症対策について、区施設の涼み処（クーリングシェルター）としての提供を行うとともに、引き続き広報紙などを活用し注意喚起してまいります。また、節電についても、区民・区内事業者を対象に省エネルギーの取組を支援する「すぎなみエコチャレンジ」等を通して環境配慮活動を促してまいります。</p>  |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 47                    | <p>24 時間風呂利用による減災、災害時の水確保</p> <p>風呂の水を初期消火活動の水源や災害時の生活用水に活用することができる 24 時間風呂の利用を促進する。</p>  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>ご提案にありますように被災者の生活維持を図る上で欠かせないのが、トイレや洗濯等に必要生活用水の確保です。区では区民所有の井戸登録制度の実施や区内学校等に防災用井戸を設置するなど生活用水の確保に努めています。</p> <p>また、区民等に対し断水への備えとして平常時から風呂水のくみ置き、雨水タンクの設置等、ご家庭等で可能な対策について周知しているところです。一方、飲料水として使用できる水については、区による備蓄や東京都水道局による災害時給水ステーション（給水拠点）における給水などの対応に加え、各家庭における備蓄を周知しているところです。</p> <p>しかし、災害規模によっては、より多くの水の確保を講じる必要があると認識しています。今回のご提案が生活用水に加え飲料水の確保につながるご提案ならば、極めて魅力的で検討範囲が広がるどころでしたが、衛生上の観点から飲料用での活用は現実的には厳しいと判断し、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> |

|    |  |
|----|--|
|    | <p>ペットシールから繋がるコミュニティの輪</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットシール（猫・犬・その他）を作成しペットとの在宅避難やペット同行避難の啓発をしながら無料配布。</li> <li>・シールのサイズは以前畜犬登録した際に配布していた【犬】とだけ書かれたシールの大きさ程度。</li> <li>・ペットシールにより地域のペット数を把握する事で震災救援所がペット同行避難受入体制を考える足掛かりとなる。</li> <li>・防災に大切な地域のコミュニティを作る。</li> <li>・高齢者とペットとの問題に向き合うきっかけ作り。</li> </ul>  |
| 48 | <p>近隣との付き合いが希薄になっている昨今、犬の飼い主は日々の散歩で飼い主同士の繋がりが出来るが、室内飼育をしている猫に関しては近所付き合いをしていても相手が猫を飼っているとは知らない事も多く、よって猫の飼い主のコミュニティは犬の飼い主に比べ作られにくい。</p> <p>また高齢者とペットとの暮らしでは身体・認知機能低下等の理由により不適正飼養されているなどの問題があるが、飼い主である高齢者と直接ふれあう事があるケアマネやヘルパーはあくまで人の為の福祉サービスでありペット問題は業務外の為に表面化しにくく、助けが必要な人が実在する状況があるのに高齢者とペットとの問題に関わる仕組みが現在全く無い。</p> <p>犬は登録が義務であり概ねの頭数把握が出来るが、猫は頭数把握する術が無い。昨今のエキゾチックアニマルブームにより、犬猫以外の多様な種のペット飼育者も少なくないと考えられる。発災時、これらの動物が一斉に逃げ出したら一体どういう状況になるのか。現在は個人情報保護の観点から各自治体で各戸のペット数を調査する事は困難。ペットシールを配布し、自ら玄関前等に張って頂く事でその家にペットがいる事も分かり、防犯にもなるのではないか。</p> |

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
|                                  | <p>ペットシールで少しでも頭数把握をして各救援所でのペット同行避難の対応を事前に考える為の足掛かりに、また地域との繋がりや高齢者とペットの問題を含む困り事の相談等のきっかけ作りになり不適正飼養や多頭飼育崩壊防止の一助にもなるのでは。ペットシール配布時にはペットとの在宅避難やペット同行避難の啓発も可能。これらの可能性が広がるペットシールの作成と配布を提案します。配布は区役所や公的施設、区民センターまつり等の公的イベント、今年度からスタートしたドッグランの受付窓口等で無料配布。杉並区には動物適正飼養普及員という制度もあるので、ペットシール配布の協力や普及活動もして貰えるのではないかと。防災は普段から地域での繋がりを作っておく事が大切。地域のコミュニティが作られていれば発災時にも自然と地域での助け合いに繋がる。現在、実現が難しいといわれるペット同行避難も地域でのコミュニティが機能すれば共助により救援所へのペット同行避難を最小限に抑えられるのではないかと。</p> <p>防災も高齢者とペットの問題も、地域との繋がりや助け合いが重要であり、提案したペットシールがそのきっかけ作りに役立てられたらと願います。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>   |

|           |   |
|-----------|---|
| <p>49</p> | <p>青空地域食堂</p> <p>ケア24圏域7圏域ごとに、近所の『公園』で、消費期限が近いローリングストックを持ち寄って、一緒に食べる。</p> <p>小地域ごとの、発災当日の体験会を『遊び』の要素を取り入れて実施する。</p> <p>自治会員の減少・避難訓練参加者が限定的・高齢者や障害者など災害時要配慮者の地域内での孤立など『つながりや備え』がない。</p> <p>これは、震災時に、認知症や精神疾患の人への不適切な対応や「自力で生き延びる意識」が強すぎることによる争いなど、権利侵害が生じ、大きな二次被害が発生するという課題がある。</p> <p>解決するために、防災・減災は「助け合い」が基盤であるという意識を地域住民が自然と再認識できるよう、日常生活の中に織り込んでいくイベントを創る。</p> <p>具体的には、子供から高齢者までが、災害時を想定した『ひと時』をともに過ごす。</p> <p>福祉的な配慮が必要な地域住民との交流や、災害時に発揮できる特技があることの確認など、一人一人の住民が自主的に役割を持って行動できるようなイベントにしていく。</p> <p>内容は、揃えはしたが、買い替えできずにいるローリングストックの食料を持ち寄る。自宅では消費できないストック食料を、災害時の調理法などのワークショップを行うことで楽しみながら消費する。</p> <p>災害時を想定し自分達で調理をすることで、自分事感覚を持つことが重要である。まず、自分自身が生き延びることができないと、他人を助けることは難しいからである。</p> |
|-----------|---|



|  |  |
|--|--|
|  | <p>二次的な効果としては、日頃、『孤食』である高齢者・障害者・子供たちなどが地域の公園で食事をともにするという時間になる。</p> <p>災害用トイレの組み立てや消火器の使い方など避難訓練で行う内容も織り込む。避難訓練は遠方で行きにくい人たちの近くへ出張したミニ訓練として位置づける。</p> <p>発災当日をイメージしたみんなでラジオ体操をすとか、歌を唄うなどのレクリエーション的なワークショップでは、それぞれ発揮できる特技を地域住民が担い、自身の役割や助け合うことを実感する。</p> <p>最低限備えておく防災備蓄品のパッケージやスプレー消火器を無料配布し、何を備えればいいかわからない住民宅どこにでも、「備蓄すぎなみパッケージ(仮称)」があるような状態を目指す。</p> <p>日頃、地域の講座などへ出向かないと聞けない、保健師などによる震災時の健康管理についても情報共有する。</p> <p>民生委員・児童委員やチームオレンジ(認知症サポーター)による認知症の人など災害時要配慮者との過ごし方の実演など、住民が直面する災害時の状況を『遊び』の要素とともに体感する。</p>   |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>ご提案いただいた取組は、災害発生時に地域住民同士がお互いに助け合う意識を醸成し、福祉的な配慮を要する方を含めた地域住民の孤立を防ぐうえで非常に意義あるものと考えます。</p> <p>一方、各要配慮者の特性に応じた食事を、不特定の参加者が持ち寄ったローリングストックを用いて提供できるのか、また、公園という環境で高齢者や障害者の体調に配慮した調理が可能か、などの点から課題が多いと考えます。</p> <p>本区では、災害時の避難及び食料等につきましては、主に区立小中学校に震災救援所が開設され、在宅避難者も含めて発災後3日間は備蓄食料が提供されることになっており、震災救援所ごとに実施している訓練の場で備蓄食料の提供準備や試食を定期的に行っております。そのため、震災救援所の訓練項目として、従来の備蓄食料の提供に加えてローリングストックの食料を用いた調理の実施を盛り込むことは検討の余地があると考えます。</p> <p>また、ラジオ体操などのレクリエーションについても、多くの住民が自身の役割を意識して活動できる観点から、震災救援所の訓練の中で検討していくことが望ましいと考えます。</p> <p>以上の理由から、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>ご提案にありますとおり、震災救援所ごとの地域特性によっては、訓練に参加される住民が固定的、限定的となる面がございますので、震災救援所の役割をより実効性のあるものとしていく意味でも、ご提案いただいた視点を踏まえ検討してまいります。</p> |

|           |  |
|-----------|--|
| <p>50</p> | <p>防災対策として、グリーンインフラ導入と緑地保全の推進について</p> <p>防災対策として、善福寺川流域でのグリーンインフラ導入と緑地保全の重要性を提案します。緑地が水害リスクを軽減することを強調し、地域の安全と持続可能な未来を確保するための予算配分を求めます。</p> <p>地域の安全と持続可能な未来を確保するために、防災対策の重要性を強調し、特にグリーンインフラの導入と緑地の保全が有効であると考えています。</p> |
|-----------|--|

この意見書で、善福寺川流域の治水対策に関連した具体的な事業提案を述べさせていただきます。

#### グリーンインフラの導入と緑地の保全の重要性

近年、気候変動の影響による自然災害が頻発し、特に水害のリスクが高まっています。グリーンインフラとは、自然環境を活用した都市のインフラ整備を指し、その一環として緑地の保全が挙げられます。緑地は豊かな植生によって雨水を吸収し、地表流れを減少させる役割を果たします。また、都市内の緑地は地下水の浸透を助け、地盤の安定化に寄与します。

#### 海外事例の成功と善福寺川流域の可能性

海外では、例えばオランダのアムステルダムでは、過去の水害を教訓にして緑地を活用した都市計画が成功しています。都市内の公園や水辺の緑地が、豪雨時における浸水を軽減し、市民の安全を確保しています。善福寺川流域も、その豊かな自然環境を活かし、緑地の保全と活用を進めることで、地域の水害リスクを低減できる可能性があります。

#### 提案

##### 緑地の保全と整備

善福寺川流域における既存の緑地を保全し、新たな緑地の整備を促進する予算を確保すること。

緑地の多様性を保ちつつ、水辺や公園など多様な環境を整備することで、地域の浸水リスクを低減する。

##### グリーンインフラの導入

都市計画において、グリーンインフラを積極的に導入するための研究と計画策定を進めること。

地域住民との協力を得ながら、具体的な施策の実施を進めること。

##### 市民の参加と啓発

地域住民や関係機関との協力を深め、防災意識の啓発と共に、自然環境の保全に向けた取り組みを推進すること。チラシ、ポスター、イベント開催等での周知

私は地域の防災と持続可能な発展のために、グリーンインフラの導入と緑地の保全が重要であると考えています。善福寺川流域を始めとする地域の特性を生かした防災対策の推進と事業化を提案いたします。

ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

|        |  |
|--------|--|
| 区<br>の | 本提案は、複数年に関わる事業提案であるため、原則単年度という参加型予算の枠組みの中では実施困難であると判断し、第二次審査の対象外としました。 |
|--------|--|

|             |   |
|-------------|---|
| 考<br>え<br>方 | <p>区では、今年度より、水害対策の一つとしてグリーンインフラの活用の検討を開始しており、5月20日にグリーンインフラに関する専門家チームと協定を締結したところです。今後は、相互に連携しながら流域治水の取り組みを発展させていくこととしています。この協定締結により、グリーンインフラに関する専門的な知識や技術的助言が得られますので、区民の方との対話などを通じて流域治水の取組を推進してまいります。</p> <p>緑地の保全と整備については、これまでも屋敷林等の保全を図るため、市民緑地制度の活用や、農地を買取り都市公園として整備することなど、積極的に緑地の保全・創出を進めています。</p> <p>また、善福寺川沿いは、東京都の都市計画公園・緑地に指定されている部分も多いことから、引き続き東京都と連携協力して緑地の保全・創出に取り組んでいきます。</p> |
|-------------|---|

|    |  |
|----|--|
|    | <p>防災×医療準備セット</p> <p>地域住民全てを対象とした【防災×医療準備セット】の作成、配布を提案します。セットには①個別医療情報をまとめるキット、②災害時に注意する点、ハザードマップ、応急処置等役立つ情報一覧を集約した冊子を含みます。現在は地域のたすけあいネットワーク（地域の手）で高齢者・障害者を対象に行われていますが、防災×医療関連情報がひとまとめになったものを全住民が手元に持つことで地域全体の防災につながると考えます。</p> <p>【防災×医療準備セット】の提案をします。他の市区町村で一部すでに行われている取り組みですが、杉並区の実情に合わせ、地域の医療従事者と共に作ることでより役立つ内容になると考えます。セット内容には①個別医療情報キット②防災・災害時に役立つ情報一覧冊子③災害時利用シールを考えますが、作成に向けた医療・行政・消防等の会議を設けることで各専門機関の課題感の共有や連携も目指したいと考えます。現状の提案内容は以下です。</p> <p>①個別医療情報キット：現在個別避難プランを立てた高齢者等が使用する「救急情報キット」と重なりますが、必要となる「かかりつけ医療機関」「既往歴」「服薬している薬」などの医療情報、緊急連絡先、血液型、その他救急隊や他者に伝えておきたい事項（事前指示書等）が書かれた用紙を専用の容器に入れ、自宅の冷蔵庫に保管しておきます。救急車を呼んだ際や避難所に移動する等の際にも役立ちます。医療情報キットには作成方法や普段の受診時にできる防災面等のアドバイスも記載し、かかりつけ医と内服薬の優先順位を相談しておく、災害用の定期内服薬を10日前後手元に置いておく、等を記載します。</p> <p>②防災・災害時に役立つ情報一覧冊子には、医療面で災害時に起きやすい体調不良（外傷、感染症、熱中症、低体温症、エコノミークラス症候群など）の予防方法、応急処置の方法、生活面では特に災害時の授乳（母乳・ミルク等）、離乳食の情報、おむつ、衛生用品等の対処方法を練りこみます。また一般的に必要な防災グッズ、連絡手段の取り決め、ハザードマップ、防災情報等もちょうろにまとめ、このセットがあれば防災の準備が家族ででき、内容もまとめて記載していざの時もすぐ使えるものとしします。</p> <p>③自宅から避難する場合無事に避難したか周囲に知らせるシール等も冊子に含み自分の安全を他者に伝えるツールも組み込みます。</p> |
| 51 |  |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>この事業の効果は、災害時という自分の健康面を伝えるのが難しいなか、また遠方搬送等も考えられる中でスピード感を持って必要な情報が得られることで必要な医療や支援をスムーズに受けることが可能になることです。私たち医療従事者目線からのポイント・必要事項・地域連携の記載項目を検討することで、災害時により運用・活用のできる内容を1つの冊子に含むことができます。このキットを通じて、住民・専門職の防災意識を高め、地域全体の防災につながることを目指します。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>   |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>公共施設に公共冷蔵庫・厨房を設置</p>  |
|                       | <p>区内各地の公共施設に予算内で業務用冷蔵庫・冷凍庫、厨房施設を増設<br/>平時は地域の子ども食堂が利用でき、災害時は避難所、被災者への炊き出しの調理施設として使用する。</p>  |
| 52                    | <p>杉並区の各地公共施設のうち増設可能な施設に業務用冷蔵庫・冷凍庫を設置<br/>大量調理も可能な厨房も増設。<br/>食品会社・スーパーマーケット・区民農園等からの寄付の食材を保管。登録した非営利の地域の子ども食堂が厨房施設を利用できるようにする。<br/>災害時は避難所、被災者への炊き出しの調理場として使用することにより、災害時の食事へのストレスを軽減できる。<br/>子ども食堂が利用できる事により、子どもの貧困への対応、子どもの居場所の確保にもつながるメリットが考えられる。<br/>食品会社、スーパーマーケット等から出る食品ロスを減らす事になると考えられる。</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>ご提案いただきました公共施設に冷蔵庫・厨房を設置する取組につきましては、災害時における食事へのストレスの軽減と平時に子ども食堂が利用することにより、食品ロスの削減や子どもなどの居場所として活用できるという点において、意義あるものと考えております。</p> <p>本区における災害時の避難及び食料等につきましては、主に区立小中学校に震災救援所が開設され、在宅避難者も含め備蓄食料が提供されることとなっております。各小中学校の給食設備には、既に大型冷蔵・冷凍庫が設置されていますが、災害時の電源等の確保、食材の衛生管理、食事の提供方法等の点から、提案事業実施には課題があると判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>また、震災救援所での生活が極めて困難な方への対応といたしましては、各地域区民センターを第二次救援所として開設します。各地域区民センターには料理室を整備していますが、調理室を使用しての避難者への食事提供は、上記と同様の理由から実施に課題があると考えます。</p> <p>一方、ご提案いただきました視点は重要と考えますので、今後の防災事業と子ども食堂の取組の検討課題とさせていただきたいと存じます。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 53                    | <p>災害時に非常用電源として活用可能なシェアサイクルモデル実証</p> <p>シェアサイクルの電動自転車を、災害時にはスマホ等を充電可能な非常用電源として活用する可能性を検証する実証実験を、シェアサイクル事業者と共同で行う。</p> <p>岸本区長が就任以降、区内では急速にシェアサイクルポートが増加してきているが、更なる利便性・利用率向上には、より一層のポートの拡大が必要な状況。ポートの設置拡大に当たっては、設置可能場所を提供する区民・事業者にとってのメリットをより向上させていく必要がある。そのため、シェアサイクル事業者と共同で、シェアサイクル用電動自転車のバッテリーを災害時にもスマホの充電等に有効活用できるようにバッテリー部分に USB ポートを設置した電動自転車を開発し、その実用性等について実証（利用者へのアンケートや耐久性等の調査）を行う。この実証を通じて、災害時にも電源として活用可能な電動自転車が駐輪されるポートの付加価値が高まり（土地貸与代+災害時の電源としての価値）、ポート設置箇所拡大につながり自動車利用の抑制及び大気環境の改善に資するとともに、区全体の防災力向上にも寄与する。</p> <p>実証期間は1年程度。予算額は1,000万円程度を見込む（製品開発費+調査委託料）。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区では、本年3月に杉並区自転車活用推進計画を策定しました。当該計画において、「シェアサイクルバッテリーを活用した非常用電源の確保/シェアサイクルの運営事業者との協働により、第二次救援所を基点として、シェアサイクルに搭載しているバッテリーを災害時の非常用電源として活用できるようにします。」旨言及し、検討・調整を進めてきました。</p> <p>シェアサイクル運営事業者との協議の結果、令和6年度内に、第二次救援所に配備する機器を通じて、シェアサイクルバッテリーを災害時の非常用電源として給電する予定です。</p> <p>以上のように、ご提案の内容は区で既に検討を進めているものであるため、第二次審査の対象外としました。</p>  |
| 54                    | <p>都市と地方をかきまぜて東京での大災害に備えよう</p> <p>杉並区とのつながりがある交流自治体や協定を結んでいる自治体スクラム会議参加の自治体を対象として防災を通じた交流を深め関係人口を拡大し、災害に備える。ふるさと住民票制度の導入やふるさと納税の活用なども有効な施策だと考える。</p> <p>また、能登半島地震の被災自治体ともあらたに協定をむすぶことも効果的ではないか。広域避難先をたくさん確保しておくことが最終的には「地域の防災力の向上」につながる。</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>   |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 55                    | <p>都の土地活用</p> <p>杉並区内にある東京都が買取って放置している土地を借り、作物を育てる。そこで収穫した野菜、果物で消費しきれないものは杉並区内のスーパー、飲食店に買い取ってもらう。その売り上げを賃料として東京都に支払う。区画で分け、その畑の賃料も利用者から取ることで、都への賃料に当てる。</p> <p>災害時の食料不足解消と夏のヒートアイランド現象を抑える目的もあります。</p> <p>杉並区内にある東京都が買取って放置している土地を借り、作物を育てる。そこで収穫した野菜、果物で消費しきれないものは杉並区内のスーパー、飲食店に買い取ってもらう。その売り上げを賃料として東京都に支払う。区画で分け、その畑の賃料も利用者から取ることで、都への賃料に当てる。</p> <p>災害時の食料不足解消と夏のヒートアイランド現象を抑える目的もあります。</p> <p>社会活動への参加により孤独死の防止にも繋がるのでは。</p>  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>都<br/>有<br/>地<br/>の<br/>活<br/>用<br/>に<br/>つ<br/>き<br/>ま<br/>し<br/>て、<br/>東<br/>京<br/>都<br/>財<br/>務<br/>局<br/>に<br/>お<br/>い<br/>て<br/>①<br/>情<br/>報<br/>提<br/>供<br/>及<br/>び<br/>②<br/>貸<br/>付<br/>け<br/>を<br/>行<br/>っ<br/>て<br/>お<br/>り<br/>ま<br/>す。</p> <p>ま<br/>ず、<br/>東<br/>京<br/>都<br/>財<br/>務<br/>局<br/>が<br/>行<br/>っ<br/>て<br/>い<br/>る<br/>①<br/>情<br/>報<br/>提<br/>供<br/>と<br/>は、<br/>保<br/>育<br/>所<br/>等<br/>と<br/>し<br/>て<br/>活<br/>用<br/>の<br/>可<br/>能<br/>性<br/>が<br/>あ<br/>る<br/>都<br/>有<br/>地<br/>を<br/>全<br/>庁<br/>的<br/>に<br/>洗<br/>い<br/>出<br/>し、<br/>定<br/>期<br/>的<br/>に<br/>区<br/>市<br/>町<br/>村<br/>に<br/>情<br/>報<br/>提<br/>供<br/>を<br/>行<br/>う<br/>と<br/>さ<br/>れ<br/>て<br/>い<br/>る<br/>も<br/>の<br/>で<br/>す。<br/>こ<br/>れ<br/>は<br/>「<br/>待<br/>機<br/>児<br/>童<br/>解<br/>消<br/>に<br/>向<br/>け<br/>た<br/>緊<br/>急<br/>対<br/>策<br/>」<br/>を<br/>実<br/>現<br/>す<br/>る<br/>た<br/>め<br/>の<br/>措<br/>置<br/>と<br/>な<br/>っ<br/>て<br/>お<br/>り<br/>ま<br/>す。</p> <p>次<br/>に、<br/>②<br/>貸<br/>付<br/>け<br/>と<br/>は、<br/>都<br/>有<br/>地<br/>を<br/>「<br/>一<br/>般<br/>競<br/>争<br/>入<br/>札<br/>」<br/>に<br/>よ<br/>っ<br/>て<br/>臨<br/>時<br/>的<br/>に<br/>貸<br/>付<br/>け<br/>の<br/>対<br/>象<br/>と<br/>し<br/>て<br/>い<br/>る<br/>も<br/>の<br/>で<br/>す。</p> <p>そ<br/>の<br/>た<br/>め、<br/>杉<br/>並<br/>区<br/>に<br/>所<br/>在<br/>す<br/>る<br/>都<br/>有<br/>地<br/>が<br/>「<br/>一<br/>般<br/>競<br/>争<br/>入<br/>札<br/>」<br/>に<br/>よ<br/>る<br/>貸<br/>付<br/>け<br/>の<br/>対<br/>象<br/>と<br/>さ<br/>れ<br/>た<br/>と<br/>し<br/>て<br/>も、「<br/>一<br/>般<br/>競<br/>争<br/>入<br/>札<br/>」<br/>の<br/>性<br/>質<br/>上、<br/>落<br/>札<br/>価<br/>格<br/>を<br/>正<br/>確<br/>に<br/>予<br/>想<br/>す<br/>る<br/>こ<br/>と<br/>は<br/>困<br/>難<br/>で<br/>あ<br/>り、<br/>あ<br/>ら<br/>か<br/>じ<br/>め<br/>予<br/>算<br/>を<br/>確<br/>保<br/>す<br/>る<br/>こ<br/>と<br/>が<br/>極<br/>め<br/>て<br/>困<br/>難<br/>と<br/>言<br/>わ<br/>ざ<br/>る<br/>を<br/>得<br/>ま<br/>せ<br/>ん。</p> <p>ま<br/>た、<br/>仮<br/>に<br/>杉<br/>並<br/>区<br/>が<br/>都<br/>有<br/>地<br/>の<br/>貸<br/>付<br/>け<br/>を<br/>落<br/>札<br/>し<br/>て、<br/>区<br/>民<br/>の<br/>皆<br/>様<br/>に<br/>農<br/>作<br/>物<br/>の<br/>栽<br/>培<br/>を<br/>開<br/>始<br/>し<br/>て<br/>い<br/>た<br/>だ<br/>い<br/>た<br/>と<br/>し<br/>て<br/>も、<br/>当<br/>該<br/>都<br/>有<br/>地<br/>を<br/>都<br/>が<br/>公<br/>共<br/>用<br/>に<br/>供<br/>す<br/>る<br/>必<br/>要<br/>が<br/>あ<br/>る<br/>と<br/>判<br/>断<br/>を<br/>し<br/>た<br/>時<br/>に<br/>は、<br/>都<br/>の<br/>判<br/>断<br/>に<br/>よ<br/>り<br/>貸<br/>借<br/>契<br/>約<br/>を<br/>解<br/>除<br/>す<br/>る<br/>こ<br/>と<br/>が<br/>で<br/>き<br/>る<br/>た<br/>め<br/>（<br/>地<br/>方<br/>自<br/>治<br/>法<br/>第<br/>238<br/>条<br/>の<br/>5<br/>第<br/>4<br/>項<br/>）<br/>、<br/>せ<br/>っ<br/>か<br/>く<br/>栽<br/>培<br/>し<br/>て<br/>い<br/>る<br/>農<br/>作<br/>物<br/>を<br/>収<br/>穫<br/>前<br/>に<br/>破<br/>棄<br/>し、<br/>土<br/>地<br/>の<br/>現<br/>状<br/>回<br/>復<br/>を<br/>行<br/>っ<br/>た<br/>上<br/>で、<br/>都<br/>に<br/>返<br/>還<br/>せ<br/>ざ<br/>る<br/>を<br/>得<br/>な<br/>い<br/>事<br/>態<br/>も<br/>生<br/>じ<br/>得<br/>ま<br/>す。</p> <p>以<br/>上<br/>の<br/>理<br/>由<br/>に<br/>よ<br/>り、<br/>ご<br/>提<br/>案<br/>の<br/>件<br/>は<br/>参<br/>加<br/>型<br/>予<br/>算<br/>の<br/>実<br/>施<br/>対<br/>象<br/>事<br/>業<br/>と<br/>し<br/>て<br/>実<br/>施<br/>が<br/>困<br/>難<br/>で<br/>あ<br/>る<br/>と<br/>判<br/>断<br/>し、<br/>第<br/>二<br/>次<br/>審<br/>査<br/>の<br/>対<br/>象<br/>外<br/>と<br/>し<br/>ま<br/>し<br/>た。</p> <p>災<br/>害<br/>時<br/>の<br/>食<br/>料<br/>不<br/>足<br/>解<br/>消<br/>・<br/>ヒ<br/>ー<br/>ト<br/>ア<br/>イ<br/>ラ<br/>ン<br/>ド<br/>現<br/>象<br/>の<br/>抑<br/>止<br/>・<br/>孤<br/>独<br/>死<br/>の<br/>防<br/>止<br/>な<br/>ど<br/>の<br/>課<br/>題<br/>は、<br/>区<br/>政<br/>に<br/>お<br/>い<br/>て<br/>極<br/>め<br/>て<br/>重<br/>要<br/>な<br/>政<br/>策<br/>課<br/>題<br/>で<br/>あ<br/>り、<br/>こ<br/>れ<br/>ら<br/>に<br/>つ<br/>い<br/>て<br/>は、<br/>別<br/>途<br/>、<br/>発<br/>災<br/>後<br/>3<br/>日<br/>分<br/>を<br/>乗<br/>り<br/>切<br/>る<br/>た<br/>め<br/>の<br/>食<br/>料<br/>備<br/>蓄<br/>、「<br/>み<br/>ど<br/>り<br/>の<br/>ベ<br/>ル<br/>ト<br/>」<br/>づ<br/>く<br/>り<br/>等<br/>に<br/>よ<br/>る<br/>ヒ<br/>ー<br/>ト<br/>ア<br/>イ<br/>ラ<br/>ン<br/>ド<br/>現<br/>象<br/>対<br/>策<br/>、<br/>ICT<br/>等<br/>を<br/>活<br/>用<br/>し<br/>た<br/>高<br/>齢<br/>者<br/>の<br/>見<br/>守<br/>り<br/>等<br/>の<br/>孤<br/>独<br/>死<br/>対<br/>策<br/>等<br/>を<br/>実<br/>施<br/>し<br/>て<br/>ま<br/>い<br/>り<br/>ま<br/>す。</p> <p><b>【参考情報】</b><br/>①情報提供について<br/>東京都財務局＞公有財産情報</p> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p><a href="https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kouyu">https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kouyu</a></p> <p>②貸付けについて<br/>東京都財務局＞公有財産情報＞土地売払い・貸付け<br/><a href="https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kouyu/nyuusatsu">https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kouyu/nyuusatsu</a><br/>一般競争入札による所有地の貸付け</p> <p><a href="https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kouyu/nyuusatsu/kashitsuke20240418">https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kouyu/nyuusatsu/kashitsuke20240418</a></p> <p>③e-GOV 法令検索<br/>＞地方自治法 第 238 条の 5（普通財産の管理及び処分）]<br/><a href="https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=322AC0000000067">https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=322AC0000000067</a></p> |
|--|---|

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>防災×朗読劇 「自分で考える防災対策」</p>  |
| 56                    | <p>東日本大震災で甚大な被害を受けた方々のことを知り、その人たちが語った言葉が詰まった朗読劇及びワークショップを区内各所で実施する。災害を自分事として考える契機となるほか、地域、学校、職場などのコミュニティで集まり、観劇を通して知り合うことが、日常の豊かさと共に心の防災力を高めることにつながる。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました(投票番号6番)。なお、投票事業とするにあたり、より多くの事業者が公募に参加することで事業の効果が高まるよう、内容は「朗読劇」に限定せず「演劇」とします。</p>   |

|    |  |
|----|--|
|    | <p>屋上菜園、井戸掘り事業</p>   |
|    | <p>杉並区内で、屋上菜園を作り、平時は、収穫した野菜を販売し、災害時、食料として提供する。設置可能な公共の場に井戸を掘り、災害時に生活用水として使用する。</p>   |
| 57 | <p>屋上菜園に賛同して頂ける杉並区内に屋上付の建物を所有する法人を募る。屋上菜園は、永福町駅の屋上庭園をイメージしたもの。<br/>杉並区役所、区民センターの屋上で、屋上菜園が可能であれば使用する。<br/>収穫野菜は災害時の食料にするため、菜園は区画の貸出しはしないものとする。<br/>地域住民参加型で、希望者には、有料で野菜を育てる体験をしてもらい、収穫野菜の一部を参加者に提供する。その他の収穫野菜は、区役所内、地域の提携店で販売する。<br/>災害時、非常食が足りず、食料不足に陥る事が想定される為、各避難場所に屋上菜園で収穫した野菜を無料で提供し、食料不足を補う役割を果たす。<br/>各地域の公共の場所、学校に井戸掘りをする。<br/>井戸は、インフラが全部止まっても、生活用水として使用できる、電気なしで使用できる防災井戸を設置。</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>区内の生産緑地や遊休地で、菜園事業に賛同協力が得られれば、井戸掘事業も同時に行い井戸水を活用する。</p>  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>ご提案の屋上菜園を作り災害時の食料を提供することについて、区立施設や民間企業の屋上の緑化を計画する場合、積載荷重や漏水防止などの安全対策とともに、転落防止や物の落下防止などの安全対策を配慮する必要があります。このような課題を解決することと、災害時に避難者へ配布するほどの生産量を見込めるか、農産物については農閑期があることを考えると事業の実施は難しいと判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>区内の農地面積は減少しておりますが、引き続き農家への支援を充実させ生産性の向上を図るとともに、区民農園等の整備を進め、都市農地の保全に努めることで災害時の食料として活用できるか検討してまいります。</p> <p>なお、防災井戸については、地域のご協力のもと、現在設置を推進しております。</p> |

|    |   |
|----|---|
|    | <p>持続可能な開発に有効なグリーンインフラを活用し、防災対策を！</p>   |
|    | <p>グリーンインフラは、持続可能な都市開発のために重要な役割を果たします。中でもバイオスウェルや雨庭（レインガーデン）は、特に防災対策として効果的です。今回は阿佐ヶ谷駅北口の中杉通のケヤキの街路樹帯を雨水の一時貯留・浸透できるバイオスウェルに改修工事を実施します。また雨庭については区立公園に実施例を作庭し、公募した個人宅に雨庭を作庭し区民が見学できる場として整備します。</p>   |
| 58 | <p>グリーンインフラは、持続可能な都市開発のために重要な役割を果たします。中でもバイオスウェルや雨庭（レインガーデン）は、特に防災対策として効果的です。</p> <p>バイオスウェルのモデルケースとして阿佐ヶ谷駅北口の中杉通のケヤキの街路樹帯を雨水の一時貯留・浸透できるように整備します。</p> <p>雨庭（レインガーデン）として、区立公園 2ヶ所程度と、公募により民間の敷地に雨庭の作庭を行い、区民が見学ができるようにし雨水の貯留・浸透に対する区民の意識を高め、その結果区内に雨庭が広がり、降雨時に雨水の流出速度をずらすこと、浸透させることで地下水の涵養につなげて、やがてグリーンインフラにより河川の洪水対策へとつなげていきたい。</p> <p>以下にバイオスウェル、雨庭（レインガーデン）の機能や利点について紹介いたします。</p> <p>■バイオスウェル<br/>機能：バイオスウェルは、雨水を集め、地下水に浸透させるための溝やくぼみです。雨水の流出を遅らせ、浸水や洪水のリスクを軽減します。<br/>利点：<br/>水質改善：植物や土壌が雨水を浄化します。<br/>水資源の補充：地下水の再充填に寄与します。<br/>生物多様性：植物や昆虫の生息地を提供します。</p> <p>■雨庭（レインガーデン）</p> |



|                                  |  |
|----------------------------------|--|
|                                  | <p>機能：雨庭は、庭や公園の一部に設置され、雨水を一時的に貯めて土壤に浸透させる庭園です。これにより、都市部の雨水管理を助けます。</p> <p>利点：<br/> 洪水防止：豪雨時の雨水流出を緩和します。<br/> 景観改善：美しい景観を提供し、都市環境を緑豊かにします。<br/> エコロジカルなメリット：生態系の多様性を促進します。</p> <p>■防災とグリーンインフラ<br/> 洪水対策：バイオスウェルや雨庭は、都市部での洪水リスクを低減し、水の自然な流れを回復させます。<br/> ヒートアイランド対策：緑地は都市の温度を下げ、暑さによる健康リスクを軽減します。</p> <p>公園と道路の役割<br/> 公園：<br/> 都市部の緑地として、レクリエーションの場を提供し、住民の健康促進に寄与します。<br/> 雨水管理のための設備（例：雨庭、バイオスウェル）を組み込むことで、防災機能を強化できます。</p> <p>道路：<br/> 緑の帯（グリーンストリップ）や透水性舗装を導入することで、雨水の管理と水質改善を図ります。<br/> 街路樹や緑化エリアは、騒音を軽減し、都市の景観を向上させます。<br/> これらの要素を組み合わせることで、持続可能で防災力の高い都市環境が実現できます。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました（投票番号7番）。<br/> なお、本提案は提案番号71と合わせて1つの事業案として構築したものを投票に付すこととします。<br/> また、投票事業とするにあたり、参加型予算の枠組み内で実施するため、まずはグリーンインフラに対する区民の気運醸成を図ること等を目的に、区立公園内に雨水タンク及び雨庭を設置する体験型フィールドワークを開催するよう提案内容を修正します。</p>   |

|           |   |
|-----------|---|
| <p>59</p> | <p>防災×被災者専用アプリの創設と被災地に救済物資引渡し場所設置</p> <p>2024年5月に、2005年の善福寺川洪水被災者に聞き取り調査を行った結果、杉並区の被災者対策に対して明確になった改善点の要望や提案を具体化する事業を考えてみた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>被災者専用サイトを作る。<br/> 災害発生時～救済等完了時</li> <li>被害地に救済物資等引き渡し場所の設置<br/> 災害発生時～救済等完了時</li> </ol> <p>1. 被災者専用サイトについて<br/> 2005年善福寺川洪水時の聞き取り調査で明らかになった問題点の第一番目は、被災者にとって必要な情報(物資の調達方法等)がひどく分かり難い事</p> |
|-----------|---|

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>だった。区役所の代表電話にかけて交換手経由で該当部署を探してもらっても、電話が繋がった先が希望通りの部署とは限らない。</p> <p>希望した部署に繋がるまで続くやり取りが、疲労が重なり、早急な対応を求める被災者にとってどれだけ過酷な状況だったか想像に難くない。</p> <p>また第二番目は、被災した住宅の後片付けをする場合、当該住宅の住民だけでは手が足りない事態の発生は容易に予想できる。</p> <p>が、ボランティアの助けを借りる事に抵抗を感じる被災者がいることが分かった。</p> <p>そうした場合の迅速な人材確保のために事前にボランティアでなく時給対象者の募集をして、応募者の登録をしておくこと被災者の気兼ねのない人材を提供する事が容易になると考える。</p> <p>以上の事を含んで、災害発生時には即刻災害対応サイトを開設し、サイトの電話番号・QRコードや区役所代表電話交換からでも被災者が容易にアクセスできるサイトの設置を提案する。</p> <p>2. 被災地に救済物資等引き渡し場所の設置について</p> <p>2005年の災害で、杉並区に後片付けで水を汲み出すための大型ポンプを頼んだところ、徒歩10分以上かかる区の施設まで被災者が数名で受け取りに行かされる状況があった。しかもその作業中に足指骨折した住民がいたと聞いた。こうした状況は、完全に杉並区としてあってはならない区民サービスの欠如である。杉並区にはこうした事故等を二度と起こさないために猛省を促す。</p> <p>何故杉並区は、被災者の生活必需品等や被災者から要望のあった物資等が直ぐに被災者に届くよう、引き渡せる場所を被災地区の中かすぐ近くに確保しなかったのか理解に苦しむ。骨折するほど疲労している被災者に寄り添う姿勢を強く求めてやまない。</p> <p>引き渡し場所となる区の施設が近く無い場合、簡易式での連絡所的な場所の設置を要望する。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>平成17(2005)年9月の集中豪雨をはじめとしたこれまでの災害への対応状況等を踏まえ、都では、国からの激甚災害対策特別緊急事業(平成17年～21年度)の採択を受け善福寺川の下流域において河川の整備を加速化し、その後も計画的に河川や調節池の整備、下水道の幹線やバイパス管の整備などを進めています。</p> <p>また、区では、杉並区都市型水害対策検討専門家委員会からの提言を受け、洪水ハザードマップの見直し、水防態勢の強化、インターネットやメールによる情報提供体制の強化とあわせて、区民のみなさんが自由に使用できる土のうを水害常襲地域に備蓄しておく、土のうステーションの設置なども進めてまいりました。</p> <p>ご提案の「被災者専用サイトについて」については、杉並区公式ホームページに「被災者への支援」ページを設け、震災・火災・風水害時に係る各種支援情報を掲載し、被災者の方が自身の知りたい情報に容易にアクセスできるよう努めているところです。また、災害時に情報収集のうえ発信するもの(時点により状況が大きく変わる可能性のあるもの。被害状況、避難所開設状況、物資配給状況など。)については、発災時に区内の状況を確認のうえ、区ホームペー</p>   |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>ジ、公開型 GIS すぎナビ、LINE、X（旧ツイッター）、メール配信サービスなどの様々な媒体を活用し、随時情報発信を行います。</p> <p>また、災害ボランティアは、発災時に杉並区社会福祉協議会が杉並ボランティアセンターを設置・運営を行うこととなっていますが、片付けなど労働力を欲する被災者の需要と、社会貢献等の姿勢で対価を求めず（無償で）役務を提供したいボランティアの供給とを、当該団体がマッチングを行う仕組みであり、災害時における有償でのボランティア活動を想定していません。発災時に災害ボランティアセンターの活動が円滑に行われるよう、当該団体とは今後とも連携を密にしていきたいと思います。</p> <p>ご提案の「救済物資等引き渡し場所の設置」につきましては、各水害常襲地域にポンプを置く場所の確保が非常に困難であること、設置した場合、自由に持ち出せることから必要な時に使えない可能性があること、相応の台数のポンプ及び格納施設の購入やメンテナンス等の費用が多くかかることなどの理由により、設置は困難と考えています。</p> <p>ポンプでの排水については、要望等に基づき職員が現地対応していますので、大規模な浸水被害の場合、ご連絡をいただいた順番や被害の状況により、時間が掛かる場合がございます。浸水が想定される場合は、可能な限り自衛いただくこともご検討ください。</p> <p>以上の理由から、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> |
|--|--|

|    |  |
|----|--|
| 60 | <p>地域停電時に太陽光パネルの電気をおすそ分け</p> <p>災害による停電時には、スマートフォンの充電等のために小口電源の確保が欠かせない。停電時に近隣住民がスマートフォンの充電等をするために、住宅用太陽光パネルで発電した電気を提供してもよいという区民を予め登録し、玄関先での掲示や区のリストで周知しておく。これにより、災害時においてコミュニティの最低限の電力をまかなうことができる。</p> <p>災害時のコミュニケーション手段・情報収集手段として、スマートフォンは欠かせないが、電源の確保が課題である。一方、太陽光発電パネルは平時のみならず、災害による停電時でも日照があれば発電可能である。そこで、停電時に近隣住民がスマートフォンを充電するために、電気を提供してもよいというパネル所有者を募って予め登録し、平時から玄関先での掲示をし、また区がリストを公開しておく。これにより、災害時においてコミュニティの最低限の電力をまかなうことができる。</p> <p>避難所に設置されるであろう大型発電機では、小口容量のコンセントを多数用意することは困難と予想され、一台の充電にも数時間を要するため、多数の避難者が効率よくスマートフォンを充電することが難しい。また、避難所の数が限られていることから、自宅避難者がスマートフォンを充電するために、頻繁に避難所へ出向くことは非効率である。</p> <p>現在、区の「エコ住宅促進助成」や都の「東京ゼロエミ住宅促進助成」の後押しもあって、再生可能エネルギーによる家庭用電源として、屋根に太陽光発電パネルを載せる住宅は区内でも増えていることから、多数の充電ステーションを区内に分散して設置できると見込まれる。</p> <p>また提供者には、配電盤から充電場所（玄関先等）までの延長ケーブルやスマートフォン充電器を配置し、有事に備える。</p> |
|----|--|

|  |  |
|--|--|
|  | <p>まとめると、本事業を行うことで、「多数」の「分散」した「小口」の電源を、「発災直後」から「自律」して確保することができる。具体的には、以下の作業工程を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 災害停電時の充電ステーション設置希望者の募集・登録・公開</li> <li>2) 充電ステーション掲示用ステッカー等の制作・配布</li> <li>3) 充電ステーション備品（延長ケーブル・スマートフォン充電器等）の調達・配布</li> </ol> |
|--|--|

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>災害時に住宅用太陽光発電設備で発電した電気を供給できる区民を予め登録し、「災害時給電ステーション」として、近隣住民のスマホの充電等ができるようにする提案になります。</p> <p>提案の発想は、発災後、電力の供給が未回復の地域・段階では、最低限必要な電力供給ができるといった点で有効なものと考えられます。</p> <p>一方、想定される発災後の状況としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①井戸水の供給とは異なり、電力の供給は発電や蓄電の量等から限界があり、給電ステーションとして広く公表を行うと、地域住民や帰宅困難者等、希望が殺到し、大きな混乱が発生するおそれがある。</li> <li>②火災や家屋損傷等で、パネル設置者自身も広域避難場所や震災救援所への避難等を余儀なくされるおそれがある中で、希望者への電力供給は、井戸とは異なり、屋内から電線を用いて行う必要があることから、安全面等にも配慮する必要がある。</li> <li>③発災後、区の職員や警察等は、防災対策業務に従事する関係上、充電場所には介在できないことから、パネル設置者に充電希望者等の混乱の抑止などを担ってもらう必要がある。等の課題が想定されます。</li> </ol> <p>現状、避難者等に対し非常用発電機等を用いて電力供給を担う震災救援所では、発電機や携帯充電コネクタ等を備蓄し対応に備えています。また、電力会社との協議では、救援所施設への供給が一般家庭に先んじて優先して復旧することとしていることから、一定のガバナンスのもと、電力提供を行っていくことが可能です。</p> <p>本提案は、発災時における電力不足に困窮する多くの区民への支援につながると考えられる一方、前述のような様々な課題が考えられ、震災救援所の役割や地域防災計画上の対応等を踏まえ、地域防災の中で、さらに研究が必要と判断し、第二次審査の対象外としました。</p> |
|-----------------------|--|

|    |   |
|----|---|
|    | <p>防災コーディネーター育成のため、予算増額</p>   |
| 61 | <p>現在、杉並区防災課管轄の DCN という防災コーディネーターという組織がありますが、今後の災害に備えて人数が多いに越したことはないと考えます。ぜひ予算を増額してこちらの人材の育成に使って頂きたいと願っております。</p> <p>事業は上記の通りですが、実施する効果については多々あります。我々町会として、また地域住民として最も心配していることは、高井戸第三小学校震災救援所連絡会による運営がほとんど機能していないことです。私は昨年9月に町会長になり、昨年は何もわからず連絡会に参加し、11月には震災救援所訓練を体験しました。鍵の預託者が我が町会にいて、借りて実際に試してみたところ</p> |

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>鍵が代わっていて全く使えなかったことをきっかけに、この連絡会は大丈夫なのか？いざ発災した時にこれではどうにもならないという危機感を持ちました。そこで町会の防災部員と共に連絡会時に問題提起と提案をしました。町会という枠を取り払い、意識の高い地域住民を中心に連絡会の実働部門として分科会を作ったらどうかと。自分の周りにどんな人材がいるのかいちばんわかっているのが町会長でしょうから、7月18日の連絡会にそういう方を出して欲しいと言いました。町会長方の反応は概して鈍く、あまり期待できません。しかし災害はいつ起きるかわかりません。町会長を防災会長とし運営を託すシステムは、少なくとも高三小に関しては無理です。きっと同じような震災救援所があるかもしれません。DCNの方々のような学んで知識も経験もある方たちに、各震災救援所連絡会に関わって頂くことで、ずいぶん運営がスピードアップされることと思います。ということでぜひとも予算を増額し、人材育成費用に当てて頂けるよう、切に願います。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>  |

|           |  |
|-----------|--|
| <p>62</p> | <p>防災・減災 × 終活で、スッキリ生きる！</p> <p>終活は人生を終える準備ではなく、よりよく生きるための手段だと考えます。<br/> もしも今、地震が来たら、何を持って避難しますか？<br/> 落ちてくるもの、倒れてくるものはありますか？<br/> スマホがなくても、大切な人の連絡先はわかりますか？<br/> 防災用品や非常食の準備はありますか？<br/> 災害時の準備って「買って備える」イメージがありますが、「不要なものを手放して、自分にとって大切なものを再確認する」機会に変えてみませんか？</p> <p>オーソドックスな防災・減災セミナーと「終活」を掛け合わせます。<br/> 主な対象は60歳以上とし、それ以外の例えば子育て世代を対象とする場合は「×お片付け」をテーマに変えます。<br/> セミナーには防災士とともに、整理収納アドバイザー、税理士、ファイナンシャルプランナーを配置し、防災や整理収納のコツなどの講演の後に、個別相談を受け付けます。<br/> 家の中を整理することで、災害ごみの削減に繋がりますし、整理されていることで防災用品や非常食などのストック場所を確保。落下物の心配がなければ、ケガを防ぐこともできます。<br/> また、不要なものがなくなってスッキリと片付いた家は、気持ちに余裕を生みます。<br/> 高齢になればなるほど、不要品の処分は億劫になってきます。かくいう私の義父母の家にも、大きなブラウン管のテレビが2台、捨てられずに置いてあります。あれがなければ部屋がどれほどスッキリすることでしょう……。不用品の回収業者は品質に良し悪しがあり、本来価値のあるものをタダ同然で持っていかれる心配もあります。そこを「杉並区お墨付き」の業者を選定し紹介すれば、安心して依頼することができます。</p> |
|-----------|--|

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
|                                  | <p>大切な人の連絡先、自分の資産、銀行や保険などの情報を整理することで、万が一の時も遺族が困ることが少なくなります。保険の請求先がすぐに分かれば、被災時にも安心感を持って過ごすことができます。</p> <p>活用していなかった土地家屋があれば、税理士やファイナンシャルプランナーが売却・活用の相談に乗ることで、空き家対策にも。</p> <p>杉並区だけではなく、東京都は避難所に全ての住民が入れるわけではありません。自宅が無事ならば、電気や水が通っていなくても、自宅避難を余儀なくされることは明白です。その時のために、非常時の備えはできる限り自分で備えること。</p> <p>人生の終わりが、突然災害によってもたらされることもある。その可能性を抜きにして、就活を考えられない段階にあるのではないのでしょうか。備えて、身の回りを整理して、スッキリと軽やかに生きられるように、この提案をいたします。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>防災と終活は、「もしもの時に予め備えておく」点が共通しているため、掛け合わせてセミナー等の事業を行うことの意義はあると受け止めています。</p> <p>しかし、提案内容にある、特定のファイナンシャルプランナー及び不用品回収業者を区が紹介することは、個人の資産運用や不用品の売買に行政が関与することになり、適切ではない（環境部杉並清掃事務所が行っている不用品回収業者のあっ旋も、単に回収するのみです。）ことから、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>なお、防災課が主体とするセミナー等の事業において、終活の視点を掛け合わせることは、今後の検討・調整すべき課題と受け止めております。</p>   |

|           |   |
|-----------|---|
| <p>63</p> | <p>防災（訓練）×デイキャンプ</p> <p>防災とデイキャンプを組み合わせたイベントを提案します。</p> <p>杉並区が各所に設置している防災設備や備蓄食料などは、区の度々の広報活動にも関わらず、十分に周知されているとは言えないと思います。</p> <p>そこで、区の防災に関する情報（ハザードマップや避難経路）を区民が積極的に知りたくなるよう、避難訓練（真面目な取り組み）とデイキャンプ（レクリエーション）を組み合わせたイベントを考えました。</p> <p>防災週間に、実際の避難場所（小学校や公園）でデイキャンプのイベントを実施します。</p> <p>参加者は、当該避難場所の対象エリアに居住する区民から募集します。<br/>参加者をくじ引きでいくつかのグループに分けます。<br/>参加者はいわゆる“お客様”ではなく、一人一人に役割があります。その役割は当日に避難場所で決まります。。全体をみて適切な判断と指示ができるリーダー、力自慢の運搬&amp;救護係、料理が得意な炊き出し係、集まる人同士のトラブルを未然に防ぐ調整係などなど。もちろん、ちびっ子たちもお年寄りへの配膳係&amp;お話をしたり聞く係とか水汲み係とかみんなを楽しませるエンターテイナーとして活躍してもらいます。</p> |
|-----------|---|

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>最大の目的は、実際に災害が起こる前の転ばぬ先の杖としての、『避難所シミュレーション』です。</p> <p>通常の避難訓練では経験できない体験を一人でも多くの区民に実施してもらうことが重要だと考えます。</p> <p>例えば、早朝に大きな地震が発生して、午前中に避難場所の小学校の校庭に人が集まってきます。</p> <p>参加者には、お昼に食べるものを備蓄倉庫から取り出し、レトルト食品であればお湯を沸かして温めたり、災害時活用用具で備蓄米を炊いたり、日よけや雨除けのテントを張ったりしてもらいます。</p> <p>グループみんなでご飯を食べたり、その後にお茶を飲んだりしながら、同じグループで反省会をしてもらいます。</p> <p>もしいつかまた同じことがあったときに、もっとうまくやるにはどうしたらいいか？今日知った防災情報を、今日参加していない近所の人にどう伝えたらいいか？あるいは、行政にもっと期待する点（もっとベンチ型のかまどを増やしてほしい、備蓄米を美味しく食べるふりかけもたくさん用意してほしい）もどんどん発言してもらいます。</p> <p>参加した子どもたちにとっては楽しいデイキャンプに、大人たちはそれぞれの得意分野で活躍してもらうイベントになるといいなと思います。</p> <p>備蓄食料には賞味期限があると思いますので、その期限が来る前に区民に美味しく食べてもらいます。杉並区内に本社がある企業にはスポンサーになってもらえるよう協力を要請します。（例えば、丸美屋さんにはふりかけとお茶漬の素を提供してもらう等、スーパーのサミットさんには、また食べらるのに少し色が悪くなっただけ売れないジャガイモやにんじんを提供してもらう等）</p> <p>このイベントには主要マスコミやYouTuberさんなどを招待して、多くの区民の知ってもらうための広報活動も兼ねます、来年は自分も参加したいと思ってもらえれば大成功だと思います。第三者からの賛否の意見ももらって、年々改善進化していくイベントになってほしいと願っています。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました(投票番号8番)。</p> <p>なお、投票事業とするにあたり、より多くの方に参加いただくことを目的に、グループ制ではなく多くの体験ブースを設け様々な体験をしていただけるようなイベント内容に変更します。また、グループ制ではない形式で開催することに伴い、反省会ではなくインターネットフォーム等により感想を募ることとします。</p>  |
| <p>64</p>                        | <p>大震災の時の『我が身の守り方』を家族で話そう！</p> <p>区内の小学校に対して、防災・減災のための全体講習会を実施し、この講習会のために作るマニュアル本を活用して、各クラス単位で話し合いの時間を設ける。そしてその内容を家庭で家族と話し合う事を、児童たちに提案します。</p>  |

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>学ぶ内容には、もし大震災にあった時の『我が身の守り方』にも充電をおきます。</p> <p>我が杉並区は家族世帯が多く、子供の数が多感じます。家族世帯が多く子供が多いという事は、大震災が起こった時に、子供だけで大震災に遭遇する可能性が高いとも言えます。防災・減災に対しての取組みは様々なところで実施されていますが、そのほとんどが大人向けです。これでは我が杉並区のように子供人口が多い地域では、万全とは言えません。なので、子供向けの取組みが必要なのです。そこで今回は、学校において子供たち自らが、防災・減災に対しての知識を学び、大震災に遭遇した時の『我が身の守り方』もしっかりと学ぶ事を提案いたします。それを各家庭で家族と話し合う事により、より具体的に身につくのではないのでしょうか。当然学校としては、保護者会や保護者宛の連絡ペーパーなどで、学校教育の一環として子供たちが防災・減災の学習をした事や、各家庭で子供たちと防災・減災の今年や大震災の時の『我が身の守り方』を話し合っ貰えるようお願いする事が必要です。</p> <p>マニュアル作りも重要です。全てを子供目線にする必要があります。出生率が異常な低下をみせている今、子供は国の宝です。近い将来必ずくると言われている大震災で、子供たちが1人でも多く生き延びて、次の日本を担って貰うためにも、子供への防災・減災、そして大震災にあった時の『我が身の守り方』の教育をしっかりとしませんか。</p>   |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>区立学校においては、安全な生活を営むのに必要な事柄について児童・生徒が理解できるようにするとともに、心身の発達段階に応じて、地震等の災害時に安全な行動ができるような態度を身に付けられるよう取り組んでいます。災害から身を守るための正しい知識を身に付けるため、全区立学校の児童・生徒に向けて、杉並区教育委員会作成の防災副読本「地震に備えて」をデジタル配信しています。同副読本は、児童・生徒が実際の災害時の行動をイメージできるように杉並区の地図を用いたり、震災時の写真を掲載したりするなど、児童・生徒にとって災害を自分事として捉えられるようにしています。また、災害時に自分自身が取るべき行動や友達と話し合っ学んだことを書き込めるようなページ構成になっており、グループ学習や話し合いによる防災教育を進められるようになっています。さらに、「防災マニュアルミニブック」では、災害発生時の各家庭の避難場所について確認するページも設けています。学校で学んだことを基に家庭でも防災について話題にし、親子で情報を共有した上で各家庭の実情に応じて災害に対する備えを考えられるような工夫をしています。</p> <p>また、全区立小学校において、東京都内にある各防災館を訪問する体験的な防災教育を実施しています。防災館では、児童に対して専門施設での本格的な体験学習を実施するとともに、専門家によるレクチャーも実施しています。地震体験車と同様の体験ができる地震体験室もあり、全ての児童が首都直下型地震発生時の揺れや避難方法について体験できるようになっています。</p> |



|  |   |
|--|---|
|  | <p>以上のことから、本提案は区の既存の取組と重複すると判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>今後ともこれらの取組を通して、子どもたちが災害時に身を守ることができるよう努めてまいります。</p> |
|--|---|

|    |   |
|----|---|
|    | <p>杉並区ぼうさい模試</p>  |
|    | <p>住民一人一人が防災意識を高く持ち、災害への備えとして何ができるのかを自分事として考え、行動変容に結びつける必要がある。そこで、杉並区の地域特性を踏まえた「ぼうさい模試」を実施し、楽しく防災に触れることで多世代の防災力の向上を目指す。また、地区単位で採点結果を集計し、上位の地区を公開することで地域防災力の指標とし、地域おこしの取り組みを通して、住民のコミュニケーションや防災・減災活動を促進する。</p>   |
| 65 | <p>1. 背景</p> <p>毎年、全国各地で災害が発生している中で、自治体は災害情報発信や防災訓練など様々な対策を実施している。一方、災害時は想定外の出来事が多数起こることが予想され、住民が情報を受け取っても適切な避難ができない、経験したことがない災害によりパニックに陥る可能性がある。したがって、災害対策をより効果が高いものとするためには、住民一人一人が防災意識を高く持ち、日頃から災害への備えとして何ができるのかを自分事として考え、行動変容に結びつける必要がある。</p> <p>2. 提案内容</p> <p>杉並区の地域特性を踏まえたクイズ形式の「ぼうさい模試」を実施し、楽しく防災に触れることで多世代の防災力の向上を目指す。具体的な内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震や風水害、土砂災害等を想定した中で適切な避難行動は何か、必要な備えは何かを学べるような問題を作成する（選択式で直感的に回答できる形とする）</li> <li>・地区単位で採点結果を集計し、上位の地区を公開することで地域防災力の指標とする（災害別にも集計し分析することで、区の災害対策の効果測定にもつなげる）</li> <li>・杉並区HPでの告知の他、杉並区LINE等のSNS活用、QRコードを読み取ることで参加できる仕組みとし商店街や店舗、地区町連等に設置を依頼することで、杉並区全体に周知する</li> </ul> <p>3. 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高齢者まで幅広く参加できるようにすることで、杉並区民の防災意識を高める（自助）</li> <li>・地域おこしの取り組みを通して、住民のコミュニケーションや防災・減災活動を促進する（共助）</li> <li>・地域防災力の向上により、杉並区の住みやすさや、まちの魅力を高める</li> </ul> <p>4. 提案の工夫</p> <p>東京都が「東京都防災模試」を過去に実施しており、他の自治体の事例を参考にすることで、事業の実現可能性を考慮した。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>災害時の防災対策については、従来より町会、防災会及び震災救援所の連絡会などと区が協力し、地域特性に応じた防災訓練や防災イベント等を実施して地域住民に対し啓発を行っているところです。</p> <p>各地域(団体)の取組は、参加住民の年齢・特性等、様々な要素が地域ごとに異なった状況で行っていることから、「ぼうさい模試」といった一定の方式で地区ごとに採点し、順位付けを行うことは困難であると判断し、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>各地域の協力や実践的な対応力を踏まえると、地域対抗とすることは必ずしも地域防災力の向上につながるとは言えないとの考えから、ご提案の「ぼうさい模試」については実施は困難ですが、これまで以上に町会、防災会及び震災救援所の連絡会などと区が協力体制を強化していくことにより、各地域の特性に応じた防災対策を重視しつつ、区民の方の行動変容を促進できるよう取組んでまいります。</p> |
|-----------------------|--|

|    |  |
|----|--|
| 66 | <p>防災コミュニティ形成とハザードマップ改善プロジェクト</p> <p>本提案は、杉並区の洪水ハザードマップに示された浸水が想定される地域を防災コミュニティとして設定し、各該当地の住民に防災ワークショップを実施します。このワークショップで災害時の住民の体験・知恵を発掘し、それをハザードマップに住民の実態データとして加えることで災害の全体像を整備します。また、このプロジェクトにより新たな防災コミュニティの形成と、住民が地域なりの防災情報を共有できることを目指します。</p> <p>本提案は、杉並区の洪水ハザードマップ（都市型水害に備えて一水防の手引き）を活用し、マップに示された浸水が想定される地域を防災コミュニティとして設定しその住民に防災ワークショップを実施します。このワークショップでは、ハザードマップを学ぶとともに、水害時の住民自身の体験や知恵を掘り起こし、数値だけでは把握できない水害の全体像を分かり易く自分事と思えるデータとして開発します。</p> <p>このワークショップの開催により、地域住民が直面する可能性のあるリスクを具体的に理解し、それに対する対策を共有することが可能となります。また、住民自身が情報を提供し、それがハザードマップのデータとして反映されることで、住民の防災意識の向上も期待できます。</p> <p>さらに、このワークショップのプロセスから新たな防災コミュニティが形成促進されることで、その地域なりの防災情報の整備が進むと考えられます。住民同士が連携し、情報を共有することで、災害時の自助・共助の体制が強化され、地域全体の防災力が向上するでしょう。</p> <p>また、ワークショップで得られたデータは、新たなハザードマップ作成の基礎データとして活用することができます。これにより、ハザードマップは水害の手引きとしてより実感として感じられるものとなり、その有用性が一層高まると考えられます。</p> <p>以上のように、本提案は、防災ワークショップの開催とその成果の活用を通じて、地域の防災力向上を目指すものです。住民参加型の防災活動を推進することで、杉並区の安全と安心を守るための新たなステップを踏み出すことができると考えています。</p> |
|----|--|

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました(投票番号9番)。<br/>         なお、投票事業とするにあたり、対象地域は浸水想定地域ではなく、区が把握する水害常襲地域とします。</p> |
|-----------------------|---|

|    |  |
|----|--|
| 67 | <p>異年齢・障がい児合併保育の推進と防災対策</p> <p>異年齢・障がい児合併保育を普及することで差別問題解消、地域交流の活性化を推進し防災・減災対策へ繋げる。該当の保育施設は完全バリアフリーで幅広い職員を配置する。平時は保育施設として運営し、避難訓練等の活動を通して防災対策へ貢献する。災害時は、施設利用者や乳幼児・障がい児・保護者などを対象に避難所として開放し、地域住民や利用対象者の心理的安全性を担保する。</p> |
|----|--|

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>ご提案いただきました異年齢・障がい児保育の考えについては、区の子ども施策全体の中でインクルージョン推進の観点から共感いたします。</p> <p>現在、区立施設においては、日々の保育の中で異年齢の交流を行い、障害児保育においても各保育園で障害児を受け入れ、共に育つ環境を念頭に保育を実施しております。ただ、個々の障がいの特性に応じて少人数での環境の方が落ち着くお子さんもいるため、集団の規模はできるだけ小さい方が配慮が行き届くと考えています。</p> <p>今回ご提案された施設の新設又は移行については、貴重なご提案として受け止めておりますが、継続的に実施する内容であることや諸経費、利用者への理解等様々な事項を調整する時間的な制約を踏まえると、今回の参加型予算の要件である単年度での実施は難しいものと考え、第二次審査の対象外としました。</p> <p>また、前述のとおり、ご提案の施設の新設又は移行の実施は困難ですが、防災・減災・災害時対応についての提案は非常に重要なものと受け止めています。</p> <p>災害発生時の避難所について、区立保育園・区立児童館等は一般的な避難所とはなりません。災害発生時には施設等の被害状況を確認し、安全が確認されれば保護者が園児を引き取りにくるまで職員が園児を保護することになっています。その後は、在園児以外の児童の受け入れも含めて「応急保育・応急育成」をしつつ平常保育への復旧に努めることとなります。また、震災救援所・第二次救援所・福祉救援所等を避難場所として考えておりますが、震災救援所の収容能力を超えた避難者が発生した場合や、これらの施設が被災して避難所として機能しない場合に備えて、区内の高校、大学など24か所を補助・代替施設として指定しています。</p> <p>なお、区内にある保育園、幼稚園等は、定期的な避難訓練を毎月各施設で行っており、近隣の施設間での情報共有に努めています。</p> |
|-----------------------|---|

|    |   |
|----|---|
| 68 | <p>防災無線 戸別受信機設置貸与</p> <p>防災無線は、緊急放送時、ハウリングしたり、音が反響し聞こえにくい。防災無線の戸別受信機を区民の各家庭に貸与し、設置する事で、聴き逃し、逃げ遅れを防止できる。</p> |
|----|---|

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
|                                  | <p>現在、杉並区では、防災無線の問い合わせは、電話とメール対応をしているが、大地震等の緊急時、電話やメールで問い合わせる事は非常に困難で、放送が正確に聞き取れず、初動対応、逃げ遅れの恐れがある。</p> <p>そのため、杉並区で、防災無線 戸別受信機を貸与設置する事で、放送を正確に聞き取る事ができ、いざと言う時に、逃げ遅れて、取り残される人を減らす事ができる。</p> <p>最終目標は、一人も取り残されない事。</p> <p>防災無線 戸別受信機設置は、すでに全国の市区町村で実施されており、設置条件は、様々である。全世帯に設置される事が望ましいが、先ずは、65歳以上の高齢者世帯、御身体が不自由な方がいらっしゃるご家庭を最優先に設置する事からスタートする。</p> <p>大地震で被災した際、インフラが止まる、インターネットの回線が繋がらなくなる事を前提に、デジタルに頼りすぎない、緊急時の対応ができる体制を整える事が重要になってくる。</p>   |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>杉並区内の防災行政無線放送塔の放送内容を屋内で聞き取ることができる機器として、戸別受信機がありますが、放送内容を受信するための互換性を持つ戸別受信機は型番が決まっており、機器本体の設置に加えて、受信用の専用アンテナの設置・ケーブルの配線といった作業を行う必要があることから、作業1件当たり20万円前後の経費がかかります。</p> <p>ご提案のとおり、高齢者や障害者等、災害時要配慮者に優先的に設置することとしても、約3万人が対象となることから、参加型予算の上限である2,000万円以内で事業を実施することは困難であり、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> <p>なお、防災行政無線放送塔からの放送内容を確認できるその他の媒体として、メール配信サービス・電話応答サービス・電話通報サービスを既に提供しています。コスト面から考慮してもこれらの媒体活用の周知が効果的であり、災害時要配慮者に対しては、年に一回の一斉勧奨やおたっしや訪問、民生児童委員によるたすけあいネットワーク登録者の訪問の際などによりこれらのサービスのより一層の周知を実施してまいります。</p> |
| <p>69</p>                        | <p>防災×生物多様性</p> <p>近年、地球温暖化の影響による異常気象が頻発しており、都市部においても洪水や土砂災害などの自然災害のリスクが高まっています。一方、生物多様性の喪失は地球規模の課題となっており、都市における自然環境の保全と回復も重要です。</p> <p>本提案では、これらの課題を解決するために、グリーンインフラが持つ多面性を住民に体験・体感できる公園をメインとし、地域の防災力向上と生物多様性保全に貢献する公園づくりを目指します。</p>  |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>本提案は区で実現可能な提案と判断しましたが、第二次審査の結果、投票事業から除外されました。</p>   |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 70                    | <p>防災×流域治水の見える化</p> <p>近年、豪雨や洪水などの自然災害が頻発しており、地域住民の安全確保と資産保護が重要な課題となっています。しかし、既設の雨水浸透施設や雨水タンクの設置状況や効果が地域住民に十分に伝わっていない現状があります。そこで、本企画では、雨水浸透施設や雨水タンクをマップで見える化し、浸透量や貯水量を見える化することで、地域住民の防災意識向上と流域治水対策の推進を目指します。</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区立施設に設置している浸透施設については公表可能ですが、個人・法人へ助成を行ったものについては、マップ上に落とし込むことについて一部の方から同意を得られても浸透施設の設置状況という主旨から正確性に欠けてしまいます。また、助成を受けず独自で設置されている施設の把握が非常に困難です。さらに、浸透量や貯留量については、連続降雨等の気候条件やタンク内の現容量の把握が難しく可視化が困難であるため、本提案は事業実施不可能なものとして第二次審査の対象外としました。</p> <p>しかしながら、イラストや動画などを活用してのわかりやすく説明すること、住民の理解を深めるワークショップやイベントの開催、講演会や見学ツアーなどの開催など、住民の理解と関心を高めることなどにつきまして、提案内容を検討し協働による流域治水対策を推進します。</p> <p>また、杉並区では、ホームページにて雨量や河川水位に関するデータを公開しており、シミュレーションにつきましては、水害ハザードマップに記載しております。</p> <p>杉並区は行政と地域住民が協力して信頼関係を築き、持続可能な治水対策を実現できるよう努めてまいります。</p> |

|    |  |
|----|--|
| 71 | <p>防災×グリーンインフラ</p> <p>「グリーンインフラで洪水被害を減らす」<br/>激変する気象。この変化に備え災害を防ぐために何を手立てとするとより良いのか。<br/>巨大化する台風やゲリラ雷雨と線状降雨帯によってもたらされる河川の増水、越流、そして地震災害による水の確保など、いずれの災害の場合でも、「雨水」がキーワードになります。区内を流れる善福寺川を念頭に、グリーンインフラと水の通り道について明日からでも取り組める手法を提案します。</p> <p>■グリーンインフラには雨水が欠かせない<br/>治水対策としては、流域各所に調節池などが建設され、相当量の雨量に対しても機能する工夫がされています。では、なぜ洪水が起きるのでしょうか。最大の要因は合流式下水道の仕組みによるものです。アスファルトに覆われた市街地では、降った雨がそのまま側溝を通り雨水管から下水管に合流し、下水処理の許容量を超えると善福寺川に直接流れ込みます。<br/>「グリーンインフラ」には様々な考え方がありますが、雨水の循環を活用することが重要です。雨水を貯留することは災害時の水確保にも有効です。そして、「雨庭」で効果的に雨水の地中浸透を促進することは洪水の抑制に効果的です。</p> |
|----|--|

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | <p>1. 雨水を貯めよう！ 雨水タンクの活用<br/>         雨水が下水管に「直行」してしまわないようにするためには、戸建てであれ集合住宅であれ、オフィスビル等であれ、屋根に降った雨を雨水タンクなどを設置することで相当量を貯留することが大きな助けになります。貯留した雨水は、庭やプランターなどの植木や家庭菜園などに活用したり、暑い日の打ち水にも使えます。また、災害時の水の確保に役立ちます。特に災害時の水の活用は、火災の初期消火などにも有効です。</p> <p>2. 「雨庭」を造ろう ー降雨の地中浸透を積極的に活用するー<br/>         アスファルトは雨水が下水管に流れ込む通りみちですが、それ以外の土の部分でも、踏み固められてしまえば雨水は浸透しにくくなります。しかし、豊かな緑（草木）があると、土の浸透能力は飛躍的に上がります。また、樹木には樹木そのものの保水力もあり、地中に根をはることで生物が独自の環境を整えて、雨水はゆっくりと地中に浸透していくことができます。<br/>         昨今の区内を見回すと、屋敷林の減少など、雨水浸透能力に優れた地域が減っていることは大変残念なことです。また、公共の公園などもその設置目的によって、豊かな土壌を確保することが難しいことも事実です。そこで、たとえ小さな面積でも、雨水が浸透しやすくなる場所を「雨庭」として確保し、少しでも雨水が浸透しやすくすることが考えられます。<br/>         学校ビオトープや戸建て住宅の庭を「雨庭化」する試みも少しずつ増えている今、このような「小さな試み」を増やしていくことで、豊かな緑地を携え、洪水の心配をしなくてすむ、住み心地の良い杉並区になるように、雨水タンク設置の普及と雨庭を実装する試みが必要です。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました(投票番号7番)。なお、本提案は提案番号58と合わせて1つの事業案として構築したものを投票に付すこととします。</p>  |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>「防災×区長室流域治水タスクフォース」</p> <p>「防災×区長室流域治水タスクフォース」は、区長室直轄の専門チームを設立し、横断的に流域治水に関する総合的な対策を推進するプロジェクトです。区の各部署が連携し、流域治水に関わる職員の専門性を高め、効果的な対策を実施します。また、各部署に「流域治水担当者」を配置し、組織全体での取り組みを強化します。</p>  |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>ご提案には、横断的な組織づくりによる流域治水担当者のスキル向上などの内容が含まれており、提案趣旨を達成することは原則単年度事業という参加型予算の枠組みの中では難しいと考え、第二次審査の対象外としました。</p> <p>グリーンインフラの取組として、区では、流域治水に関わる「雨庭」などの技術開発とその効果検証や地域に暮らす人々、各種団体との協働（パートナーシップ）による流域治水の推進について研究を行っている専門家のグループと令和6年5月20日に連携協定を締結しており、相互に連携しながら流域治水の取り組みを発展させていくこととしています。この協定締結により、グリーンインフラに関する専門的な知識や技術的助言が得られることが期待できます。ま</p> |

|  |  |
|--|--|
|  | た、公共施設においても雨庭などの設置することを考えています。引き続き連携協定を通じた専門家からの助言や、区民の方との対話を通して流域治水の取組を推進してまいります。 |
|--|--|

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       | 小中学生と教員向けグリーンインフラ教育プログラム   |
| 73                    | 「防災×学校における流域治水教育」は、小中学生と教員を対象に、流域治水リテラシーとグリーンインフラの重要性を教育するプロジェクトです。授業やワークショップ、実地見学を通じて、地域を守るための知識とスキルを習得します。また、学校に雨庭、バイオスウェール、雨水タンクを設置し、川の水位状況を監視できるシステムを導入します。これにより、防災意識の向上と地域全体の防災力強化を目指します。   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>流域治水リテラシーとグリーンインフラに関する教育については、学校の敷地内に善福寺川が通る井荻小学校において、その立地上の特性から川と関連した様々な取組を長年にわたって行っています。その主な活動は、「児童の提案により始まった善福寺川の清掃活動」「5・6年生児童が描いた『夢水路設計図』を区長に届けたことに端を発する遅野井川親水施設の開園」「冊子『野鳥観察ノート』の作成」「『いおぎ田んぼ』による農業体験の実施」「新編善福寺川風土記」の発行などで、これらの様々な体験等を通して理解を深めています。なお、井荻小学校のこれらの取組については、杉並区小中学生環境サミットにおいて報告をすることで、他の学校へも発信をしております。また、他の区立学校が実施している取組としては、理科の学習において学校内のビオトープを活用した水生生物の観察を行ったり、小学校第4学年の社会科では水害から暮らしを守るための住民及び行政の取組について学んだりしています。さらに、区立小学校の中には神田川・環状七号線地下調整池への社会科見学を実施し、流域治水の実際について学んでいる学校もあります。</p> <p>教員には、防災館などの実地踏査を通して、防災教育についての指導力の育成を図っています。さらに、教員向け研修という実施方法ではありませんが、区立学校等の震災救援所委員に教員が関わっているところもあり、防災に関する知識の習得なども適宜行われているものと認識しています。</p> <p>また、学校における治水対策として、周辺地域に水が流出しないよう、排水桝の設置などの対策を講じているところです。さらに学校改築や20年ごとの大規模改修にあわせて、雨水タンクよりも大規模な雨水貯留槽の校庭下への設置を進めています。そのため、雨庭、バイオスウェールについて、費用対効果の点から、設置する考えはありませんが、引き続き、予算の範囲内での学校における雨水流出抑制対策に取り組んでまいります。</p> <p>なお、水位監視システムについて、現状のシステムでも、学校において共有が図られることから、教育委員会として新たに導入する考えはございません。</p> <p>以上の理由から、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> |

|    |                             |
|----|-----------------------------|
| 74 | 「防災×流域治水人材育成：ブルジョブ促進プロジェクト」 |
|----|-----------------------------|

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>「防災×流域治水人材育成」は、杉並区の職員を対象に、流域治水の知識と技術を教育し、「流域治水インタープレター」、「流域治水コーディネーター」、「流域治水デザイナー」などの専門人材を育成するプロジェクトです。公共施設にグリーンインフラを導入し、地域課題に対応するため、大学と連携して学生や社会人を訓練し、ブルジョブで活躍できる仕組みを形成します。</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区では、今年度、国からの先導的グリーンインフラモデル形成支援事業の採択を受けており、本事業を活用して、職員研修などを進めていきます。</p> <p>グリーンインフラを活用して地域課題に取り組んでいくため、基礎知識の習得及び課を超えた組織横断的なメンバーによるワーキンググループでの研修を計画しており、この研修の成果として、それぞれの地域課題を解決するためのロードマップなどを作成し、具体的な施策の展開を検討していく予定です。</p> <p>また、道路や公園、公共施設においては、グリーンインフラの考えを取り入れて雨水タンクや雨庭などの水害対策を検討していく予定です。</p> <p>以上のように、本提案内容は区の既存の取組と重複する部分が多いと判断し、第二次審査の対象外としました。</p> <p>流域治水に関わる専門知識を用いた人材育成については、職員に限定することなく、流域における全ての関係者が関わるのが重要であり、ご提案いただいた資格制度なども区内でグリーンインフラを進めていくうえでの参考とさせていただきます。</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>防災×雨水タンク：災害時の水確保と水害リスク低減プロジェクト</p>   |
| 75                    | <p>「防災×雨水タンク」は、災害時の水確保と水害リスクの減少を目指したプロジェクトです。地震などの災害後に必要な水を確保するため、避難所を中心に雨水タンクを設置し、雨水を貯留・活用するシステムを導入します。また、今後の公共建物に雨水貯留を義務付ける条例の検討も行い、地域の防災力を強化します。さらに、雨水タンク設置に対する助成金と雨水アドバイザー制度を導入し、地域全体での取り組みを推進します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 避難所への雨水タンクの設置</li> <li>2. 雨水の浄化システムの導入</li> <li>3. 雨水タンク設置助成金制度</li> <li>4. 雨水アドバイザー制度の導入</li> <li>5. 雨水利用の教育と啓発活動</li> <li>6. 公共建物における雨水貯留義務化の条例検討</li> </ol> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>「1. 避難所への雨水タンクの設置」及び「2. 雨水の浄化システムの導入」について</p> <p>本件は、避難所となる公共施設に雨水タンクを設置し、飲水・生活用水に活用する等の提案です。現状、区施設では、ほぼ全ての施設で地下ピット等雨水貯留施設の設置を行っており、トイレ用水やビオトープなどに活用しています。</p> <p>提案に関しては、①前述のとおり既に多くの施設の設備として雨水用ピットがあること②震災救援所となる各学校等は、1,000人から2,000人程の収容を想定しており、避難者一人1日あたり、飲料1リットル、生活用水2リットルの水が必要となることから、必要量を提案の雨水タンクで確保しようとする、</p>  |



|  |  |
|--|--|
|  | <p>相当、大がかりなもの、又は多数の雨水タンクが必要となり、かつ、非常時の活用を考えると、常に水を潤沢に貯留している状況を維持する必要があります。</p> <p>現状、各震災救援所では、飲料水は長期備蓄が可能となった備蓄品その他を、また、生活用水は各施設に設置した井戸その他、で確保することとしています。なお、貯めた雨水の飲料利用は、検査し、水道法の基準をクリアすること等が必要であり、これらを考え合わせると、1、2については、困難と考えます。</p> <p>「3. 雨水タンク設置助成金制度」について<br/>地域住民等に対する家庭用雨水タンクの助成は1 / 2 補助で既に実施しており、年10～20件程度活用されています。</p> <p>「4. 雨水アドバイザー制度の導入」、「5. 雨水利用の啓発」及び「6. 公共建物における雨水貯留義務化の条例検討」について<br/>まず、5. 雨水利用の啓発に関しては、雨水タンク助成利用者に限らず広く区民等に利活用の必要性などについて啓発していくことが重要と考えており、より一層の啓発方法の工夫について検討してまいります。また、4. 雨水アドバイザー制度の導入に関しては、啓発の一環の取組として、総合的に検討を進めていきます。</p> <p>なお、雨水貯留義務化の条例検討に関しては、現在も、公共施設ではほぼ全ての施設で雨水貯留施設の設置を行っており、また、今年度から公共施設の貯留量に関わる基準数値を上げるなどの強化を行っています。</p> <p>以上の理由から、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> |
|--|--|

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 76                    | 「杉並雨庭ネットワーク」   |
|                       | <p>「杉並雨庭ネットワーク」は、雨庭を活用して洪水や浸水被害を軽減し、地域の景観と環境を向上させるプロジェクトです。地域住民、企業、自治体が協力し、雨庭の設置と維持管理を推進します。また、雨庭登録システムを導入し、登録された雨庭に対して固定資産税の減税を行う仕組みを条例化します。特に商工会や大規模な土地所有者をターゲットにし、防災力の向上とともに、地域コミュニティの連帯感が強化されます。</p>   |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本提案は、複数年にわたり実施する必要があるため、参加型予算の原則単年度という枠組みで実施するのは困難であり、第二次審査の対象外としました。</p> <p>区では、雨庭など水害対策にもなるグリーンインフラについて、区民との対話の中で一緒に考え進めていく方針であり、今年度、区民との意見交換会の場を複数回設けてまいります。その中で、ご提案の地域住民参加によるワークショップでの企画設計から施工・維持管理までの在り方なども参考に意見交換を進めたいと考えております。</p> <p>なお、雨庭をはじめとした、グリーンインフラについては、その雨水流出を抑制する効果の定量的評価など研究段階の部分も多く、雨庭登録システムと条例化や登録された雨庭に対して固定資産税の減税の検討については、現時点ではとても難しいものと捉えております。</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 77                    | <p>体験型生物多様性の森づくり</p> <p>生態系を活用した防災・減災を学ぶ「体験型生物多様性の森」をつくる。杉並区の公園の空きスペースを利用し、グリーンインフラの実践として、どんぐり苗から木を育て管理する取り組みである。専門家と協働し、co2 固定量、保水量、防火効果、緑陰の温度低下効果を検証する。観察会や森の管理を通して、幼児から高齢者まで、災害リスクを下げる生物多様性の意味を体験学習する。</p> <p>事業の詳細<br/> 住民主体の活動母体を作り、どんぐりのポット苗を育て、公園の空きスペースや寄贈された空き家スペースなどに植樹する。<br/> 専門家の協力を得て、木々の成長とともに吸収される CO2 量、保水量、火災時の防火効果、炎天下の温度低下効果などを計測し、見える化する。<br/> (CO2 の固定量は IGES が測定) (保水量はグリーンインフラの研究の一環として島谷グループによって測定)<br/> 近隣住民は、生物多様性と災害の関係を体験し学ぶ場となる。</p> <p>事業の効果<br/> 生物多様性が地球環境、延いては防災にとって大事であることを理解し、実際の行動変容につなげることは喫緊の課題だが、実際どうしたら良いのかわからない人や、関心のない人がまだ多い。<br/> 生物多様性の理解を深めるには、実際に体験することが最も効果的である。<br/> 恐怖を煽る教育ではなく、幅広い世代に浸透する、前向きな楽しみのある教育の現場として「体験型生物多様性の森」を実現する。<br/> これにより、広い意味での地球温暖化、都市ヒートアイランド現象、災害のリスクを下げる都市型モデル事業として取り組む。</p> <p>小さな身近な森での自然観察会や、土づくりやなど森の管理の実践を通して、環境・防災・生物多様性の関係を、体験を通して学ぶ。<br/> 場所によっては畑や、文化利用できる草木を植樹し、体験教室を実施する。<br/> 定期的に参加することで、近隣の異年齢のつながりが生まれ、災害時の助け合いにも繋がる。<br/> 公益性の高い緑地空間の維持・創出を目指す取り組みである。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>本件は、杉並区の公園等の空きスペースにどんぐりのポット苗を植え、教育の場としての「体験型生物多様性の森」をつくり、専門家と協働のもと、CO2 固定量、保水量、防火効果、緑陰の温度低下効果を計測し、見える化することで、生物多様性と防災の関係を体験し、学ぶ場とする提案です。</p> <p>一般的にどんぐりのポット苗が成長するのには時間がかかる等、「体験型生物多様性の森」の整備には、中長期的な期間を要します。参加型予算の対象事業は、原則として単年度事業であり、参加型予算の枠組みで実施するのは難しく、第二次審査の対象外としました。</p>  |
| 78                    | <p>防災×樹木管理のための人材育成の提案</p> <p>防災に関連する地域防災の環境を整えるためには、現在の杉並区の状況では不完全と言わざるを得ない。</p>   |

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
|                                  | <p>土木の専門家と樹木の専門家の相互作用で正しい地域防災の環境ができるのだと考える。</p> <p>樹木の専門家の育成には他よりずっと時間がかかるが、杉並区が独自のシステムでそれを確立してほしいと願って提案する。</p> <p>杉並区は23区の中でも緑が多く住みやすい街として人気が高いと聞いている。が、実態はどうだろう。</p> <p>公園は一人あたり2.1㎡(畳1枚強)で23区中19位、緑被率も23区内15位とどちらも下から数えたほうが早い。「緑豊かな杉並区」は妄想なのである。</p> <p>樹木と災害について考えると、例えば樹木がある事で地面に雨水が染み込むのを助ける。これはグリーンインフラでも言われることである。従って、よく整備されていれば土砂崩れを防ぐ効果もある。1例を挙げれば、イチョウは水分を多く含み火災の延焼を防ぐ効果があるので、昔からお寺の境内や街路樹に植えられてきた。</p> <p>その他、樹木でも果樹と呼ばれて美味しい果実を実らせるものやドングリが成って野生動物等の食料になるものもある。美しい花を咲かせたり紅葉して楽しませてくれる樹木もある。光合成で酸素も供給してくれるし涼しい木陰は心から安らげる場所にもなる。樹木の恩恵は計り知れない。</p> <p>しかしそれらは全て、いかに樹木管理をしたかが問われるのだ。管理次第で防災や生活の一助にもなる事を改めて認識したい。</p> <p>私はこの点に関しての事業提案をしたい。</p> <p>『樹木管理士(仮称)を育成する杉並区独自のシステムを作る』</p> <p>樹木に関する深い知識と豊富な経験で、樹木の10年先の姿を予想して、樹木に負担のかからない早い時期に剪定を行う事ができる樹木管理士を育成する事が目的だ。敢えて樹木医と区別したのは、樹木医とよばれる人達の中には知識と経験においてレベルの差が顕著で、信頼に足りない場合もあると知ったからだ。</p> <p>樹木管理の先進地フランス・ナント市の人口は30万人程だが樹木管理の資格を持ってその仕事に従事する人数は30人くらいだそう。杉並区の規模だと50~60人の樹木管理士が必要となる。が、最初の募集は次のように考えてみた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年齢60歳未満の男女。</li> <li>2. 経験は問わないが、緑が好きでやる気がある事。</li> <li>3. 募集人数 5名。</li> <li>4. 所属先 杉並区役所 樹木管理の専門家なので配置転換無し。</li> </ol> <p>やる気がある事を最重要ポイントとして審査する。</p> <p>研修期間は2~3年とするがその先も常に必要な研鑽を積む機会を設ける。</p> <p>管理する地域は杉並区全域の樹木がある場所全てで、公園に関しては区立・都立の区別はつけない。</p> <p>以上</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>研修期間を2~3年設けた上でシステム化するという事業は、参加型予算の原則単年度という枠組みで実施するのは困難であり、第二次審査の対象外としました。</p> <p>区では土木造園(造園)の専門技術職を中心に公園の維持管理を行っているほか、樹木医の資格を取得している職員もいるため、専門的な知識の取得や技</p>  |

|  |   |
|--|---|
|  | 術の研鑽に努め、これらの職員によって引き続き適正な樹木管理に取り組んでまいります。 |
|--|---|

|    |   |
|----|---|
| 79 | <p><b>【防災×区民との対話】 杉並区新しい防災ビジョン区民会議</b></p> <p>杉並区の防災にいま最も求められているのは、防災政策に杉並区の区民のみなさん地域のみなさんが参加して、杉並区と区民・地域のみなさんとの対話の中から防災のことを考えていく仕組み・システムです。</p> <p>具体的には、単年度 2,000 万円の予算で年 6 回の【防災×区民との対話】杉並区新しい防災ビジョン区民会議を開きます。（予算の例「気候区民会議」1,335 万円）</p> <p>区民との対話を大切にす杉並区のビジョンを行います。</p> <p>杉並区の防災にとって一番たいせつなのは、杉並区に暮らすお一人おひとりを災害から守ることです。地域のみなさん、お一人おひとりを災害から守ることです。</p> <p>現在、杉並区の防災に最も求められているのは、防災の施策や政策を杉並区が作る時に、杉並区の区民のみなさん地域のみなさんが参加して、杉並区は、区民のみなさん地域のみなさんとの対話の中から、杉並区の防災のことを考えていく仕組み・システムです。</p> <p>区民のみなさんや地域に住むみなさんは、その地域についての地域の個性や特色、日頃の天候や防災に必要な地域の情報をいちばん知っています。</p> <p>ここには、区民のみなさん地域のみなさんしか知らない、防災における地域の知恵がたくさんあることを、杉並区のみなさんで知る必要があります。</p> <p>もしも杉並区の防災において、防災の施策や政策・計画を立てていくときに、杉並区の区民のみなさん、地域のみなさんが日頃から参加して、区民のみなさん、地域のみなさんとの対話の中から、杉並区の防災のことを考えていく仕組み・システムがあるならば、</p> <p>防災の専門家の先生方や防災を担当される杉並区職員のみなさんも気づかなかった、杉並区のそれぞれの地域の防災に必要な情報や知恵を、みんなで事前に共有することができ、これまで以上によりいっそう、しなやかな杉並区の防災を行っていくことができます。</p> <p>具体的には、</p> <p>まずは試みとして単年度、全 6 回の「【防災×区民との対話】杉並区新しい防災ビジョン区民会議」を開きます。</p> <p>予算は 2,000 万円です。</p> |
|----|---|

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
|                                  | <p>予算の参考になる例として「気候区民会議」全6回は、令和6年度に1,335万円です。</p> <p>この防災の区民会議では、オンライン参加の仕組み・システムを追加し、手話や筆記通訳などのユニバーサルデザインを備えます。</p> <p>杉並区は、区民のみなさんとの対話・地域に住むみなさんとの対話を大切にします。杉並区は、地域のみなさん区民のみなさんと向き合い、たえず対話を行いながら、施策や政策を考えていきます。</p> <p>これは、杉並区で始まった新しいビジョンのひとつです。</p> <p>この杉並区の新しいビジョンに基づいて、杉並区の防災について区民のみなさん地域に住むみなさんとともに、防災の施策や政策をおしすすめていきます。</p> <p>区民のみなさん地域のみなさんとの対話を大切にする、杉並区の新しい防災のビジョンです。</p> <p>ありがとうございました。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>杉並区では、防災に関する計画や施策の推進のために、杉並区防災会議という会議体を設置しています。防災会議では、防災関係機関のほか、地域の代表として防災市民組織や区議会議員を委員としており、防災にかかる重要事項を審議しています。</p> <p>また、震災時の避難所となる震災救援所の代表者を集めた会議を例年6月頃に実施しており、震災救援所における訓練の重点事項や区の防災施策の共有を図っているほか、各震災救援所の状況の情報交換を行っています。</p> <p>以上のことから、本提案は区の既存の取組と重複すると判断し、第二次審査の対象外としました。</p>   |

|           |   |
|-----------|---|
| <p>80</p> | <p>震災救援所運営連絡会構成員の防災士資格試験料等の助成制度創設</p> <p>震災救援所運営連絡会を構成する地域団体（町会・自治会等）構成員の高齢化や担い手不足により、平時の訓練や発災時の活動に大きな不安を覚えるため、新たに地域のメンバーに加えるインセンティブとして、民間の資格である「防災士」資格取得の受験料補助制度を創設する。</p> <p>提案する事業は上記の通りですが、この事業を実施することによる効果 私たち下高井戸4丁目中央町会防災部は、火災危険度ランク4の地域で生活および活動していることもあり、昨年度から地域の出火防止対策と初期消火能力向上に向けた取り組みに力を入れています。特に無条件で無料で設置して頂ける感震ブレイカーに関しては、町会費回収時にチラシの配布と合わせてブレイカー設置の有無の確認、町会防災訓練の周知徹底をし、防災課のご協力により街頭消火器及びスタンドパイプの新設を進めています。その他現在地域で課題となっているのは、私たちの避難場所となる高三小震災救援所の運営についてです。高三小に限らず震災救援所運営連絡会は、その構成メンバーである地域団体（町会・自治会等）人材の高齢化、担い手不足により平時の訓練や発災時の活動に</p> |
|-----------|---|

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>大きな不安があります。特に高三小震災救援所運営連絡会は、未だ区防災課が示す震災救援所運営標準マニュアルに沿った体制がとられておらず、会長や所長に相談しても進展しません。これを解決するため、専門ではない区職員に頼らずに地域住民で解決するために、新たに地域メンバーの中から震災時の活動の知識を持ち訓練を受けた「地域防災コーディネーター」あるいは「防災士」資格取得者を、震災救援所のメンバーに迎え入れ活性化を図ってはどうでしょうか。そのインセンティブとして資格取得のための受験料補助制度を創設されることを提案します。また地域の企業や福祉施設など民間の方々が、震災救援所運営連絡会に加入し訓練等に参加することで、区からの地域貢献賞などの助成をされるなどはいかがでしょうか。いずれにしても今のまま町会長の意向に任せていては、進展しないことは確かです。私は昨年9月に町会長になり、連絡会議と昨年の救援所訓練に参加し、非常に危機感を持っています。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>本提案は第二次審査の結果、投票事業として採択されました（投票番号 10番）。</p> <p>なお、防災士資格試験料の助成については、地域に還元していただくため、震災救援所連絡会、防災市民組織、消防団で活動している方を対象とします。また、既に開講している地域防災コーディネーター養成講座を拡充し、受講後は震災救援所連絡会の参加を引き続き呼びかけていきます。</p> <p>提案内容のうち、「震災救援所運営連絡会への民間企業の加入・参加に対する助成」については、既に参加している民間企業への公平性の観点から実施は、困難と考えます。</p>  |

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| <p>81</p>                        | <p>地元商店街と必要品買い取り協定</p> <p>商店街、ドラッグストア、スーパーマーケットチェーン店との間で、被災時、足りなくなった備蓄品買い取り協定を結ぶ</p> <p>被災時は、備蓄品が足りなくなり、店の商品の品薄、買い占め、横流し、盗難など、必要な物がすぐに足りなくなる可能性が高い。</p> <p>実際に被災地に必要な品が届くまで時間がかかる事もあり、予め、主に、飲用水、食料品、トイレトペーパーや生理用品、おむつなどの紙もの、ハンドソープ、石鹸など、衛生用品を中心に、商店街の各店舗、ドラッグストア、スーパーマーケットのチェーン店本社と緊急時の買い取り協定を結んでおく事で、必要なものを必要な人に必要な分だけ提供し、行き渡らせる事ができる。</p> <p>ドラッグストアでは、包帯や消毒、経口補水液も対象品にする。</p> <p>物資や非常用飲用水が運べる「折りたたみ式リヤカー」を各避難場所や公共の場に1~2台保管し、商店街や水道局と避難場所への往来に活用する。</p> |
| <p>区<br/>の<br/>考<br/>え<br/>方</p> | <p>区では災害時を想定し、様々な団体・事業者と協定を締結しているほか、各震災救援所には備蓄品の運搬等に用いるため、リヤカーや台車を備蓄しています。協定には、医薬品販売会社との「医薬品等の調達業務に関する協定」や、区内商店街・スーパーマーケット・コンビニエンスストア等との「応急物資の優先供給等の協力に関する協定」等があります。災害時には、区内備蓄品に加え、これらの協定に基づく各団体・事業者からの協力も得て、物資確保に努めてまいります。</p> <p>以上のことから、本提案は区の既存の取組と重複すると判断し、第二次審査の対象外としました。</p>   |

|       |   |
|-------|---|
|       | <p>杉並区成二・成三モデル「脱炭素型防災拠点の変貌」</p> <p>成三町会が保有する「成三会館（以下、会館）」を脱炭素型「防災拠点」への転換を行います。本事業採択後は、会館の屋根部に太陽光発電設備等を設置し、平常時は太陽光による発電にて会館の電気をまかなう一方で、発災時には成二・成三町会において配慮が必要な方々が集える避難所へと転用できるスキームとします。</p> <p>また、地域住民向けに季節ごとに避難訓練を行い、成三会館を起点とした地域の絆の強化を図ります。</p>   |
| 82    | <p>現在、成二町会、成三町会では、「成三会館（以下、会館）」を基点として町内会の活動や地域のコミュニティ活動が行われていますが、年々「町内会加入率の低下」「地域コミュニティの希薄化」が問題になっております。「地域の絆」が希薄化したいま、激甚災害が発災した際には、「共助」の部分が脆弱化しており、「公助」を待つ間、自助だけで命を守るしかない状況下にあります。</p> <p>そこで、成二町会、成三町会では、会館を「脱炭素型」防災拠点への転換を行い、地域の絆の再興を諮り、「共助」の強化を行います。具体的には3つの打ち手を考えております。</p> <p>1) 会館の屋根部に太陽光パネルおよび蓄電池を設置<br/>平常時は太陽光パネルによって発電された電気により、施設内の運用をまかなくないです。特に夏場においては「指定遮熱避施設」として地域住民向けに地域の「止まり木」として開放します。</p> <p>また、災害時に成二町会、成三町会において特に配慮が必要な方の一時的な避難所として受入、特に高齢者や乳幼児などの配慮が必要な方で移動が難しい場合などは短期的に避難してもらおうことも可能となります。</p> <p>2) 防災備蓄品の準備<br/>2016年時点で内閣府のデータでは、備蓄品の準備率はおよそ半分といった状況であり、発災時に何も無い世帯が多くあるのが実情です。そこで、発災時に、備蓄品の準備がない方を中心に配布が出来るよう、食料や水を中心に備蓄を行います。</p> <p>3) 年4回の避難訓練<br/>地域住民主体による避難訓練を季節毎に行い、それぞれの季節に応じた避難方法、避難所の開設方法について研修を行います。一部、民間企業などに同種の研修事業を委託し、地域住民向けに啓発活動を行います。特に、会館を防災拠点とした際の運用方法について学ぶとともに、杉並区との協議とはなりますが、地域の指定避難所の開設についても、併せて学べるようなものを地域住民に提供をします。研修後は会館にて懇親会を行い親睦を深めたいと考えております。</p> |
| 区の考え方 | <p>建物への設備の設置については、都や一般財団の既存の制度として、一般財団法人自治総合センターの実施するコミュニティ助成事業（宝くじの社会貢献広報事業）の中の地域防災組織育成助成事業（杉並区では、事業のうち「一般コミュニティ助成事業」で、町会おみこしの修理等で助成実績あり）において、自主防災組織の場合は、30万円から上限200万円まで補助できる仕組みがあります。加えて、東京都環境局の実施する「家庭における太陽光発電導入促進事業」において、既存住宅への太陽光パネルを設置する場合、上限45万円まで補助でき</p>  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>る仕組みといったものがあります。「令和6年度参加型予算制度モデル実施要項」において、「施設整備を目的とするもの」については対象事業から除外としており、提案の趣旨に近いと思われるこれらの各補助金や助成制度等の活用をご検討いただけたらと思います。</p> <p>区では、区立学校等を震災救援所に指定し発災時の防災拠点として位置づけています。区立学校等の震災救援所は、町会や防災市民組織等が委員として運営をしていただき、発災時に備え、日頃から連絡会や訓練を実施しています。</p> <p>防災物資については、発災後3日間を乗り切るための食料備蓄をはじめ計画的に購入するとともに、協定を締結した自治体や企業等からの支援物資も活用することとしています。</p> <p>以上の理由から、本提案は第二次審査の対象外としました。</p> |
|--|---|

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 83                    | <p>杉並区 防災公園の構築</p> <p>いざ震災が発生したとき、身近な人命を守るのは、となり近所の地域の方々です。地域の絆をはぐくむ為に町会には防災会が設けられ自主救援組織を形成しています。町会内で震災弱者の高齢者・障害者・乳幼児の存在を把握しているのも町会です。共助の震災救援所は複数の町会で構成されています。身近な町会の方々で助け合い、各町会の防災拠点として区立公園を防災公園に構築したいと思います。</p> <p>杉並区内には約160の町会・自治会が存在します。杉並区立公園の中で球戯場・流れ・複数遊器具などが有る比較的大きい公園は146箇所あります。是非、身近な公園を「防災公園」として有効活用できるように防災倉庫の設置をお願いします。防災公園を地域防災の拠点として構築する事により、となり近所の方々と絆を深め助け合える地域を形成します。公園には防災倉庫を設置し防災資器材（リヤカー・発電機・蓄電池・テント・飲料水・簡易トイレ等、町会が所有する物）を何時でも使用できるようにします。町会防災会では定期的に公園内の球戯場や広場を利用して防災訓練を開催したり地域のコミュニケーションを計る為のイベントなどを開催します。通常では行わない高齢者・障害者・乳幼児などの震災弱者を救援する為に組織を編成し、地域の救助を必要とされる方の把握や「震災救援所」への搬送、地域の安否確認などを防災公園を拠点として行えば「震災救援所」に集合した際、多数の町会の方々が集り、各町会が纏める事ができていればスムーズに共助への対応ができます。防災倉庫を目印に「防災公園」を認識していただき「我が町の防災公園」として有意義に活用させて頂ければ幸いです。</p> |
| 区<br>の<br>考<br>え<br>方 | <p>区立公園に防災倉庫を新設する場合、過去の整備実績等を踏まえると、150㎡の倉庫で7,200万円程度の建築工事費（@48万円/㎡）がかかり、2,000万円の予算上限では、41㎡の倉庫1カ所を整備するにとどまります。41㎡の倉庫では、提案された公園を防災拠点とするための資機材や飲料水を格納するには不十分な大きさです。また、提案のあった「横2m×奥行1m×高さ2m程度の小型倉庫」を区内各所の区立公園に設置することについても、同様です。</p> <p>以上の理由から、本事業は第二次審査の対象外としました。</p> <p>杉並区では、引き続き、区立小中学校や地域区民センター等の区立施設の改修・改築のタイミングに合わせて、災害備蓄倉庫の整備を行い、発災時に活用する備蓄品の充実を図ってまいります。</p>   |



